

2023.8



会 誌

[71号]

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会

目次

巻頭言	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 副会長	松本 義明	2
新任役員のご挨拶	副会長	大塚 孝之	4
	理事	竹村 幸治	6
	監事	佐藤 和典	8
	監事	濱田 悟	10
JAHISひろば	一般社団法人 医療データ活用基盤整備機構 理事長	岡田 美保子	11
特集	2023年第13期定時社員総会&懇親会を開催しました	寺崎 貴宏	14
新任部会長の ご挨拶・抱負	事業推進部 部長	三嶋 大二郎	16
部会から	総務会 JAHIS会員意識調査2023 結果報告	柴 健一郎	17
	標準化推進部会 国際標準化総覧 2022年度版について	岡田 真一	24
	標準化推進部会 祝リニューアル!! 現在の医療情報システムにおける 標準類オーバービューチャートに至るまで	鳥井 満	31
	医事コンピュータ部会 診療報酬改定DXへの取り組み		36
	医療システム部会 医師の働き方改革 ～タスク・シフト／シェア～ において臨床検査システムに期待されていること	打保 昭典	41
	保健福祉システム部会 地域医療連携を促進する技術の動向	田中 良樹 光城 元博	43
	事業推進部 事業企画委員会 書籍「医療情報システム入門」出版事業の ご紹介～病院の情報システムがこの一冊でしっかりわかる!～	小川 雄代	46
表彰受賞者紹介			49
運営状況報告	理事会／運営会議状況報告／総務会／委員派遣ならびに協賛・後援		68
新規会員紹介	株式会社オークソリューションズ／株式会社TMJ／株式会社シード・プランニング／ 株式会社 ストランザ／株式会社アルム		80
ランクアップ会員 紹介	株式会社医療情報システム／株式会社ファインデックス		84
事務局新人紹介	事務局 総務部長	寺崎 貴宏	86
編集後記			88

ご挨拶



一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会
副会長

まつもと よしあき
松本 義明

富士通Japan(株)
ソリューション開発本部
エグゼクティブディレクター

JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）の副会長を拝命しました松本でございます。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

5月8日に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の位置付けが2類から5類へ変わりました。2020年1月に国内で初の感染者が確認されてから約3年半、この病と闘い続け今なお治療や感染拡大防止にご尽力されている医療従事者、介護従事者、行政関係の皆さまに心より感謝と尊敬を申し上げます。

コロナ禍によってオンライン診療の普及率が15%に変化し、オンラインでの会議や学会が当たり前になるなど、ICT化が促進された一方で、海外と比較するとまだデジタル化が進んでいない部分が多いのが現状です。

日本の医療業界は慢性的な人手不足であり、更に少子高齢化の進行によって、2040年には医療・福祉分野の就業者数が96万人の人手不足に陥ることが「令和4年版 厚生労働白書」では報告されています。また、医療の地域格差も大きな課題であり、次なる感染症も想定しておかなければなりません。これら課題を解決するために不可欠なのがICTを活用した更なる医療DXの加速です。

ヘルスケアICTのプロフェッショナルであるJAHIS会員が一丸となって更なる研鑽を積むことで、今以上にテクノロジーとデータを活用し、人々がより安心して健康に暮らせるデジタル社会の形成を加速させることは間違いありません。

一方でデジタル化の加速とともに新たなサイバーセキュリティ攻撃との闘いや、生成AIなどの新たな技術をいかに適正に使用するかといった、新たなテーマが続々と発生することも想定されます。

私は30年以上に渡りヘルスケア領域でシステム開発に携わってきましたが、これからも知識をアップデートすることに努め、人を中心に考えることを忘れず、JAHISの2030ビジョンで描く「データ活用の恩恵を個人に還元する世界」の実現に取り組んで参る所存です。

6月2日には内閣総理大臣を本部長とした医療DX推進本部から、医療DXの推進に関する工程表が公表されました。工程

表によると「2024年の健康保険証の廃止」、「全ての医療機関・薬局における電子処方箋の普及」、「全国医療情報プラットフォームの構築」、「電子カルテ情報の標準化等」、「診療報酬改定DX」、「自治体システムの標準化と連動した情報の標準化と連携」といった重要な施策をかなりのスピード感を持って実現することになります。

介護現場におけるDX推進、PHRなどを用いた健康づくり・疾病予防の領域も、社会保障制度を持続可能にするための重要なテーマです。

標準化、サイバーセキュリティ対策、個人情報保護、倫理性の担保等、各領域においてJAHIS各会員の個の強みや推進力を最大限に発揮し、またそれを1つの大きな方向性にまとめ、今後の健康・医療・介護のDXに取り組む必要があります。

皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



副会長

おおつか たかゆき

大塚 孝之

ウィーメックス(株)
代表取締役社長

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、副会長を拝命いたしましたウィーメックスの大塚孝之でございます。就任にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

最初にこの場をお借りして、当社、ウィーメックスについて簡単にご紹介させていただきたいと思います。当社は、三洋電機のヘルスケア部門が原点の1つであり、「メディコム」という事業ブランドで医療機関・薬局の円滑な業務遂行を支援してきました。社会の変化に伴って、生活者の健康との向き合い方が変わり始めている中、医療（Medical）に関わる人々の課題解決に加え、その先にいる生活者のWell-beingに貢献したいと考え、Well-being とMedicalをクロスさせ、実現していくことをWEMEX（ウィーメックス）という社名にこめ活動してまいります。

さて、我が国においては、本格的な「少子高齢化・人口減少時代」を迎えようとしています。増大し続ける医療費の抑制や、医療・介護従事者の働き方改革が叫ばれて久しい中、COVID-19のパンデミックも1つの起因となり、過去に誰も経験したことがない速さで、『医療DX』という変革の波が起こっています。

そうした中、昨年の「経済財政運営と改革の基本方針2022」（骨太方針2022）において、「全国医療情報プラットフォーム」、「電子カルテ情報の標準化」、「診療報酬改定DX」の3本柱が示され、医療DXを推進するため、内閣総理大臣を本部長とし関係閣僚により構成される『医療DX推進本部』が昨年10月に設置されたことは、記憶に新しいと思います。この『医療DX推進本部』によって、本年6月2日、「医療DXの推進に関する工程表」が公開されました。6月16日には、「経済財政運営と改革の基本方針2023」（骨太方針2023）が経済財政諮問会議での答申を経て、閣議決定され、この工程表

に基づき、国を挙げて医療DXの実現を推進していくことが明確となりました。

まず、6月に成立したマイナンバー改正関連法により、現行の健康保険証が2024年秋に廃止されることが決定したこともあり、オンライン資格確認等システムが医療DXの基盤となることは疑いようありません。このインフラを利用した電子処方箋の本格運用も2023年1月より開始されており、工程表にも「2025年3月までに、オンライン資格確認を導入した概ねすべての医療機関・薬局に導入することを目指して必要な支援を行う」とされ、より一層の普及推進が求められています。

次に、「全国医療情報プラットフォーム」の一環である「電子カルテ情報共有サービス（仮称）」についても「2024年度中に、電子カルテ情報の標準化を実現した医療機関等から順次運用を開始する」と明記されたことから、その実現に向けた活動、さらには、現在の3文書6情報（診療情報提供書、退院時サマリー、健康診断結果報告書、傷病名、アレルギー情報、感染症情報、薬剤禁忌情報、検査情報（救急及び生活習慣病）、処方情報）の拡大も図れることから、標準化の推進を目指すJAHISも引き続き重要な役割を担っていくと考えられます。

他方で、医療DXの実現にはその両輪となるセキュリティ対策も重要な課題となります。昨今、様々な場所でランサムウェア被害が増加しており、病院においてもその被害が相次いでいます。5月末には、「医療システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版」が公開されましたが、JAHISにおいては、病院、診療所、薬局、介護施設等を問わず、医療情報を扱う施設において、3省2ガイドラインのさらなる順守、周知、支援などの徹底した活動が重要となります。

JAHISとしてもこうした活動によって、JAHISが2020年に発刊した「2030ビジョン」の中でコンセプトとしている「データ循環型社会の実現」を達成し、健康・医療・介護分野のデータを蓄積・循環し利活用することで、データ提供者である国民が利益を享受できる社会の実現を目指していきたいと思いをします。

JAHISは、引き続き、各省庁、学会等の関係団体と連携を強化しながら活動を推進してまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

ご挨拶



理事

たけむら こうじ

竹村 幸治

コニカミノルタ(株)

ヘルスケア事業本部

HC-IT事業部 事業部長

本年度よりJAHISの理事に就任致しました竹村でございます。会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動へのご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。

2020年4月に出された緊急事態宣言から3年が経過し、本年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、日本経済は回復の兆しが見えてきました。長きに渡り、医療現場の最前線で患者様の命を守るべくご尽力された医療従事者の皆様に感謝申し上げます。

さて、6月に入り「骨太の方針2023」が閣議決定され、時代の転換点とも言える構造的な変化と課題に直面する中、30年ぶりとなる高い水準の賃上げや企業部門における高い投資意欲など、「加速する新しい資本主義」の実現に向けた取組が提言されました。医療に関しても、少子高齢化と人口減少に対応し、限りある資源を有効に活用しながら質の高い医療サービスを必要に応じて受けることのできる「医療提供体制の改革」や、医師の働き方改革を実践しながら様々な医療ニーズに効率的に対応し、医療サービスの質を高めていくために「医療DXの推進」の方向性が明示されました。

一方、IoT・ICT・AI等の技術の進歩は、保険医療分野も例外ではなく、様々な医療サービスの中で積極的に活用され、医師の診断の助けや、医療業務の生産性向上、患者とのエンゲージメントなどで利用されるシーンが増えてきています。来年度の診療報酬改定では、これら技術を活用した取り組みが評価され、更に加速することと思います。また、最近話題の「ChatGPT」に代表されるような「生成AI」は、自然言語を理解し、まるで人間と対話しているかのようなやり取りを可能とするため、医療介護現場で実用化されることは、そう遠くないことだと思います。

2020年10月からマイナンバーカードによるオンライン資格確認が始まり、国民はマイナポータルを通じて、レセプト情報や健康診断の結果も閲覧できるようになり、自身の健康に関する情報を必要な時に必要な相手に共有できる仕組みも整ってまいりました。ここへ電子カルテや検査結果なども加わることで、更に医療者間でのデータの利活用も進み、予防医療、健康増進が実現できるものと期待します。当然、これ

らの実現において、保健医療福祉情報システムに関する標準化の推進、品質及び安全性の確保に関わるJAHISの役割は非常に重要であります。

私は画像診断に関わるソフトウェアやクラウドサービスに身を置き20年近くになりますが、これまでの経験を活かして、微力ながらJAHISの取組みに尽力して参りたいと思います。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶



監事

さとう かずのり

佐藤 和典

(株)フィリップス・ジャパン
コネクテッドケア事業部
EMR&CM シニアマネジャー

会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動へのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、監事を務めさせていただくことになりました佐藤和典でございます。このような重職に就任し、身の引き締まる思いではございますが、JAHISの益々の発展と日本の医療DX推進のために全力を尽くしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

4月17日から21日にシカゴで開催されたHIMSS (Healthcare Information and Management Systems Society) 展示会に参加してきました。HIMSSは全世界で会員数が120,000名を誇る医療情報関連組織です。日本の医療情報学会の会員数が約3,500名ですから、圧倒的なスケールの組織であることが分かります。展示会には33,000人以上が来場し、1,103社からの出展がありました。最先端のウェアラブルデバイスや、在宅や病院間におけるリモートモニタリングシステム、モニタリングアラートを通知し、患者さんに異変が起こる前に介入を行うことができるシステム、AIを利用した画像読影や診断支援システムなど多岐に渡る製品が展示されていました。各社のインフォマティクス戦略のベース概念は共通しているように感じました。それは「コネクテッドケア」という考え方で、様々な医療データがつながり、可視化され、共有され、蓄積されたデータを分析し、臨床に活かしていこうというものです。我が国の「全国医療情報プラットフォーム」、「電子カルテ情報の標準化」、「診療報酬改定DX」を3本柱とする医療DXの指針も考え方は共通していると思います。

ところで、日本は欧米諸国と比較し、DXが遅れていると言われていますが、その主な原因としてユーザー企業のIT人材が不足していることがあります。日本全体では、約120万人のIT人材がいますが、その72%がベンダー企業に所属しており、システム開発の業務委託が一般的になっています。一方、アメリカはIT人材は約400万人で、ユーザー企業に65%の人材が所属しています。アメリカではシステム構築は内製化が一般的であり、日本のようにSI事業者に委託するようなビジネスモデルはほとんどありません。そのため開発のスピードやコストが日本とは圧倒的な差となっていると同時に、自社

内にリテラシーが蓄積されDXを推進しやすい環境にあると言えます。また、原則パッケージソフトウェアの機能に業務を合わせるやり方をするため、カスタマイズ開発も少なく、共通のモジュール管理がされるため、不具合への対応やアップデートが非常にスムーズに実施できているようです。

日本と欧米とでは雇用形態が違うこともあり、IT人材が育ちにくい環境にありましたが、昨今ではジョブ型雇用が導入され、IT人材の役割が重要なものとなってきています。ガートナー社の2023年に行われた調査によると、54.4%の企業が今後のソフトウェア開発について内製化の方針を打ち出しているとのことですし、医療業界においては、病院内にDX推進部門が設置されるなどIT人材の役割が益々重要になってきています。医療DX推進のためには、マルチベンダー下におけるシステム連携、データ連携のための標準化が不可欠で、「コネクテッドケア」実現の基盤を構築することがJAHISのミッションのひとつと考えています。私自身、電子カルテのベンダー企業側の立場にいたこともあり、JAHISの活動に積極的に関わっていきたいですし、会員の皆様がJAHISの活動に参加いただけますよう、ご支援させていただきますので何卒よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



監事

はま だ さとる

濱田 悟

富士フイルムヘルスケアシステムズ(株)
医療IT事業部
ソリューション本部 本部長

JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、監事を務めさせていただくこととなりました濱田でございます。就任にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

さて、本年6月16日に「経済財政運営と改革の基本方針2023」（いわゆる「骨太方針2023」）が閣議決定しました。わが国は、時代の転換点とも言える構造的な変化と課題に直面する中で新しい資本主義を加速していくとし、医療DXの推進に向けた取組みを重要課題の一つとして取り上げ、「必要な支援を行いつつ政府を挙げて確実に実施する」と強いメッセージが発信されたところです。

同日に公示された「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023改訂版」においても、医療DXがわが国の医療の将来を切りひらくものであることから、全国医療情報プラットフォームの創設や診療報酬改定DX、電子カルテ情報の標準化等の施策は「国が責任を持って主導する」とされています。

また、DX化の推進において欠かせないのがサイバーセキュリティ対策による安心・安全の担保です。医療法の改正により医療機関等へのサイバーセキュリティが義務化され、本年6月にはチェックリストも公開されました。医療情報システムの提供だけでなく、医療現場のセキュリティ対策が急務であり、こちらも併せて支援が必要となります。

政府主導による医療DXの実装が加速的に進む中、忘れてはいけない重要なファクターは医師の働き方改革をはじめとした医療を支える現場の皆様の業務効率化、および患者の皆様にとってより良い医療を享受できる環境づくりであり、地方や高齢者などが置き去りにされることのないよう全体最適化をめざしたいと考えております。

日本国民が安心・安全な環境でより良い医療サービスを享受できるよう、JAHISの一員として、また、医療情報システムの構築に関わる一員として、医療DXの実現に向けた活動に真摯に取り組む所存でございます。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

お隣りさんはパイロット！

一般社団法人 医療データ活用基盤整備機構
理事長

おかた みほこ
岡田 美保子



飛行機の座席の選び方

長時間のフライトでも飛行機は基本的にエコノミークラスです。昔はエコノミーのチケットでも乗る間に「空いてるからビジネスに乗せてあげますよ」というのがありましたが、そういうのは、もうずうっと全然ありません。長時間のフライトでは、とりわけ座席の選択は重要です。希望は「通路側であること」、そして「お隣りが空いていること」です。でも、座席を予約したときはお隣りが空いていても、直前に埋まってしまうことも多いので、あまりお隣りが空いていることは期待しないようにしています。いつ頃からか「エコノミー+α（プレミアム・エコノミー等）」みたいな座席クラスができましたね。諸般の事情で、いつもとは参りませんが、乗れることもあります。この場合、若干シートの余裕があるので、「通路側」であればお隣りが空いてなくとも、あまり気になりません。いずれにしても、お隣にどのような方が乗ってみえるか、これには選択の余地がありません。隣の方がどのようなであったかは、ほとんど記憶に残りませんが、たまに誰かに話したくなるようなこともあります。



お隣りさんはパイロット！

渡航制限も解かれてからで、比較的最近のことですが、欧州に行く機会があり、帰りはプレミアム・エコノミーで通路側の席が取れました。さっそく乗り込んで荷物整理をしていると、お隣に制服を着た方が乗ってみえたではありませんか。二言三言、言葉を交わしたところ、パイロットでいらっしゃるの！パイロットの方とお話ししたことなど、もちろんありません。方向音痴、運動音痴（持久走だけはOK）、車の運転もできず自転車にも乗れない私は、トラックのように大きな乗り物を運転され

る方に憧れます。飛行機なんて、もう興奮して大変です。でも、とっても気さくな方で、緊張も、どこへやら。なんでも羽田に着いたら、すぐに北海道に移動され、そこから次のフライトとのこと。それなら羽田行きのフライトは、休養をとる大切な時間だと思いますが、ビジネスクラスを使われないことに驚き、さらには休む間もなく、ずっとタブレットでお仕事をされている様子です。きっと難しい書類とか作成しないとまらないのだろうなと同情を禁じ得ません。私はPCを出して作業しているつもりで、うつらうつらとしていました。こんなとき普通、あまり会話しないと思いますが、あまり立ち入ることもなく面白いフワッとした会話をしていました。会話上手というのは、こういう方を言うのですね。私が言ったことで覚えているのは「日本は幸福度があまり高くないらしいこと、女性の地位が低いと言われる一方、男性の方が女性より幸せ感が低いというのはどうしてか」みたいな話しです。

楽しい執筆作業！

「大事な休養の時間と思いますが、働き詰めで大変ですね」みたいなことを申したところ、「いえいえ、これは仕事でなく僕の趣味で書いてるもので、楽しんでます。飛行機の不思議を、皆さんに紹介したいと思って」とのこと。すでに本を出版されていて、その続編を書かれているそうです。私がへえ～～と実に興味深そうにしていたら、「読んでみますか？」とのことで、電子書籍リーダー（Kindleかな？）を貸してくださいました。そっか。とてもハードなお仕事をされながら、楽しい執筆時間を持っておられるのかと、妙に感心してしまいました。皆さん、そうなのかしらん。

頭はボンヤリとしていましたが、堅苦しい読み物でないことは、すぐにわかりました。セキュリティチェックの話はちょっと秘密です。小さなお子さんの乗客のこと、そして4つ足の乗客のこと。なるほどなるほど。トピックごとにせいぜい1、2ページで書かれたエッセイ集みたいな気軽なタッチです。

飛行機のお不思議あれこれ

驚いたのは「飛行機の窓には穴が開いている！」という話し。本当?! 穴なんか開いてたら大変! でもそこはちゃんと、しっかり説明があります。う～ん……しかし理屈（説明）になると途端に眠気に襲われます。ごめなさいです。瞼がつい閉じてしまい、頭がガクツとしてビクリして、ハッと気がついて大きく目を見開いて、また瞼が……と何度か繰り返しました。これはもう無理、リーダーを落としては大変、お返ししようか。



と、そのとき「飛行機のトイレ！」の話しで思い切り目が覚めました。（例の溜まったものを）「空にぶちまけているという、ミステリアスな話しがあるが、真実は果たしていかに！」みたいなお話です。「まさか、そんなことがあるはずは……」「でも、ひょっとしたら」「う～んと高いところなら一瞬に凍る?」。結論ですが、「そんなわけないでしょう！」でした。ああ、よかった。

知らないことで埋まっていて、実に楽しい、この本は「FLYING – Answers from Inside the Cockpit」というタイトルです。「パイロットになるための条件」とか、関心のある方もおいででは? せっかくの機会だったので、帰ってからAmazonで購入しました。ぼんやりとみていたときとは全く違うところも少なからず。ものすごく眠いのを我慢して読むのはやめた方がよさそうです。

飛行機はなぜ飛ぶことができる?

最大の不思議は「なぜ、飛行機は飛ぶことができるのか?」。いままで何度か聞いたことがありますが、そうなのかと思いながらも、「でもやっぱり不思議!」と思わずにはいられません。まあ知識も能力もないので仕方ないですが。その昔、歓送会か何かで、みなでワイワイ飲み食いしていたときのこと、お向かいに物理の先生がおられたので「あんな、とてつもなく大きな鉄の塊がどうして飛ぶのか、とても信じられません。先生なら物理の理論で『必ず飛ぶと確信をもって』乗られるのでしょうか!!」と言いました。すると、飛行機がなぜ飛ぶことができるのかとご説明くださった後、「飛行機に乗ったとき『飛ぶ確信』があるかと言われれば、そんなものあるはずがない!」とのこと。物理学者でもそうなのね。

はて。次はどんな人がお隣りに?



2023年第13期定時社員総会 &懇親会を開催しました

事務局 総務部長
てらさき たかひろ
寺崎 貴宏



定時社員総会

6月14日（水）10時45分より東京大手町の経団連会館4階ダイヤモンドルームにおいて、第13期定時社員総会を開催いたしました。

当日は会員378社中259社（委任状含む）の参加を得て、議長の森田隆之会長（日本電気㈱取締役 代表執行役社長 兼 CEO）による進行で議案を審議いたしました。

審議は、会場にて参加した会員、理事・監事、及び委任状による議決権行使分により可決要件を満たしており、すべての議案が承認可決されました。

当社員総会で報告及び審議した議案は以下のとおりです。

1. 報告事項

- ・2022年度事業報告の件

2. 審議事項

- ・第1号議案2022年度計算書類承認及び監事監査結果報告の件
- ・第2号議案2023年度事業計画承認の件
- ・第3号議案2023年度収支予算承認の件
- ・第4号議案役員選任・補欠役員選任の件

また、2022年度にJAHISの委員会あるいはプロジェクト等において、非常に貢献のあった方、そして幹部として長年工業会を支えていただいた方を表彰する表彰式をおこないました（詳細は「表彰受賞者紹介」をご参照ください）。



懇親会

定時社員総会後の12:00から、以下の式次第で懇親会を執り行いました。

司会は、軽妙な語り口の小林俊夫 事業企画推進室長が務めました。

会長挨拶	JAHIS 会長	森田 隆之
来賓ご挨拶	経済産業省 ヘルスケア産業課長	橋本 泰輔様
乾杯	(一財) 医療情報システム開発センター理事長	山本 隆一様

冒頭の挨拶で森田会長は、「医療DXにとって、今年来年が大変重要な年になる。ここで失敗すると日本は医療ITの後進国になってしまう。データ連携においては、セキュリティリスクを心配する声があるが、その重要性をこのコロナ禍で十分認識してきた。万全なセキュリティ対応をはかり安心・安全を確保しながら電子カルテ等のデータの標準化を進め、データ連携そして医療DXを推進させることが重要だ」と述べました。また生成AIについても、「政府の後押しもあってこれからどんどん発展し加速化していくだろう。予防や治療の世界で有用性や有効性が認められる時代になる」との認識を示されました。



続いて来賓を代表して、経済産業省の橋本泰輔ヘルスケア産業課長からご挨拶をいただきました。橋本課長は、ヘルスケア産業は日本の数少ない成長分野であり、今後日本経済を支えていく産業になること、また医療DX推進本部が進める公的な医療データの整備に合わせて、ウェアラブル機器が収集するライフログデータを組み合わせて新しいサービス産業を創っていききたい、PHRの推進とAIを使ってヘルスケア産業の発展と国民の健康を守り、日本の社会制度基盤を支えていききたいとのお話がありました。

乾杯の発声は、(一財) 医療情報システム開発センターの山本隆一理事長にお願いさせていただきました。山本先生からは、4年ぶりの音頭の使命を果たせて嬉しいとのことのお言葉をいただきました。ご挨拶の中では、コロナ禍の中でデータ利活用の問題点が浮き彫りになり、医療ITが公衆衛生に貢献できなかったこと、医療の情報化をPRする良い機会を失ったとの認識を示されました。一方で、生成AIは、世の中に散在する情報を素早く収集する便利なツールであり、AIと医療情報システムの連携を構築することが急務であるとのお話がありました。



JAHIS 会長
森田 隆之



経済産業省
ヘルスケア産業課長
橋本 泰輔様



(一財) 医療情報システム
開発センター理事長
山本 隆一様



JAHIS 運営会議議長
大原 通宏

ご挨拶

事業推進部 部長
(株)NTTデータ

みしま だいじろう
三嶋 大二郎



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より事業推進部の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、事業推進部長を務めさせて頂くことになりました三嶋大二郎と申します。

皆様既にご存知のとおり5月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染症法上の位置付けが「5類感染症」へと変更になりました。これを機に個人の日常生活、企業の事業活動への制限が緩和され、医療機関や保健所等、医療・保健・福祉分野における各機関の活動もひとつの転換期を迎えます。

皆様は「Build Back Better（創造的復興）」という言葉をご存知でしょうか。元来は防災分野から出てきた概念で、災害発生後の復興段階において、元の状態に戻すのではなく次の災害発生に備えて従来よりも強靱な対策を講じ、より良い復興まちづくりを実現しようという考え方です。

この「Build Back Better」という言葉は、世界各国が新型コロナウイルスに対峙する過去3年間に「復興後の社会」を「Post-COVID19（コロナ後）の社会」になぞらえて度々耳にする機会がありました。

実際に「Post-COVID19（コロナ後）」の環境を「Pre-COVID19（コロナ前）」のそれよりも良いものにしようという動きを社会の至る所で目にする事が出来ます。

この動きは保健医療福祉を取り巻く環境でも同様で、厚生労働省が掲げる「データヘルス改革」のもとオンライン資格確認や電子処方箋に代表される数多くの取り組みが、かつてよりも力強く、そしてスピード感を伴って進んでおり、私たちが健康で安心して暮らせる社会が出来上がりつつあります。

事業推進部も社会環境や保健医療福祉を取り巻く環境に合わせて新たな姿を模索します。事業推進部の基本方針は「工業会参加価値の追求」とすることには変わりはないものの、主たる活動領域である教育セミナーや展示会に関する事業等で活気ある活動を再開させつつ、皆様が享受なさる「工業会への参加価値」が従来に勝るとも劣らず素晴らしいものになる様に手順・手法等に工夫を凝らして行きます。

「Build Back Better」- 各部会から横断的なご協力を仰ぎつつ、事業推進部の新たな形を皆で探して参ります。会員企業の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご協力を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

JAHIS 会員意識調査 2023 結果報告

総務会副会長 会員意識調査TFリーダ
(株)NTTデータ

しば けんいちろう
柴 健一郎



1. はじめに

総務会では、現在総務会内に4つのタスクフォースを設置して各種改善活動を行っています。その中の1つである会員意識調査タスクフォースは、総務会のミッションの1つである会員数安定化のための施策として会員企業の社員（約3,000名）を対象としてアンケートを実施しました。JAHIS会員企業の社員一人一人の生の声を事実ベースで把握することにより、今後のJAHIS活動推進や事業計画策定等の参考にすることを目的としています。

なお、JAHIS登録者全員を対象とした大規模なアンケート調査はJAHIS創設以来初の試みであり、2021年に第1回目を実施し今回2023年に第2回目を実施しました。

2. 実施概要

今回のアンケート調査の実施概要は以下のとおりです。アンケートは回答者の率直なご意見を伺うため無記名方式で実施しており、個人を特定することは一切行っておりません。

アンケート名	JAHIS会員意識調査2023
実施主幹	総務会 会員意識調査タスクフォース (メンバー：柴TFリーダ、大川、真野、小林、谷口、寺崎)
調査目的	JAHIS会員一人ひとりの声をお聞きし、JAHIS活動推進や事業計画策定に活用する。 (観点) ①JAHIS参加への目的に関すること（参加価値、メリット等） ②JAHISの取り組みに関すること（役立ち度、満足度等） ③今後のJAHIS活動への期待に関すること（活動テーマ、要望等）
調査手法	Webアンケート
調査期間	2023年2月6日（月）～ 2023年2月24日（金）
調査対象者条件	JAHISに登録している会員会社社員（3,057名）
回答数	357名（回答率：11.7%）

実施概要

アンケートの設問数は少し多めですが29問を設定してお答えいただきました。設問内容は経年変化を捉えるため前回より大幅な変更はしませんでした。各部会からの要望を踏まえて設問の一部組み替えを行いました。

アンケート設問一覧

#	回答形式	設問内容	2023
【JAHISとの関わり度合い（回答者属性）】			
Q1	MASAMT	あなたが登録している委員会を、以下の中から全てお答えください。（いくつでも） また、その中から最も参加度合いが高いものをお答えください。（ひとつだけ）	
Q2	SA	あなたはJAHISで委員長、WGリーダ等の役職をお持ちですか。	
Q3	SA	あなたの「委員会・WG等」への出席頻度をお答えください。	
【参加目的】			
Q4	MASAMT	あなたがJAHISに参加している目的をお答えください。 以下の中から、あてはまるものを全てお答えください。（いくつでも） また、その中から最もあてはまるものをお答えください。（ひとつだけ）	
Q5	SAMT	JAHISへの参加によって、あなたの参加目的（参加価値）は達成されていると思いますか。 上記で最もあてはまるとお答えになった参加目的（参加価値）についての達成度をお答えください。 また、総合的にみた、参加目的（参加価値）についての達成度をお答えください。	
Q6	FA	JAHISの会員になって、メリットを感じたことをお聞かせください。（任意）	
【取り組みに関すること】			
Q7	SA	あなたが参加している委員会活動について、あなたはどの程度満足されていますか	
Q8	SA	あなたが参加している委員会活動について、あなたの会社でどの程度評価されていますか。	
Q9	FA	あなたが参加している委員会活動、WG活動について、ご要望があればお聞かせください。（コロナ渦の対応を含めて）（任意）	
Q10	SA	JAHISが推進している各種標準化活動は、自社の業務にどの程度役立っていると思いますか。	
Q11	FA	実際に使って役に立った標準名を教えてください。（任意）	NEW
Q12	FA	使おうとしたが使えなかった標準名を教えてください。またその理由もお聞かせください。（任意）	NEW
Q13	FA	標準化を推進するためのご意見等があればお聞かせください。 (JAHISに支援してほしいこと、期待と実態とのギャップ、阻害要因等)（任意）	
Q14	SA	JAHISの教育事業（セミナー、勉強会等の開催）について、どの程度満足されていますか。	
Q15	FA	セミナー、勉強会等で取り上げてほしいテーマ（誰向けに、どんな内容）があればお聞かせください。（任意）	
Q16	SA	JAHIS2030ビジョンを知っていますか。	NEW
Q17	SAMT	会員向けの情報発信についてお伺いします。 以下のそれぞれ項目について、満足度をお答えください。	
Q18	FA	会員向けの情報発信についてご意見やご要望があればお聞かせください。（任意）	
【JAHIS活動への期待・要望】			
Q19	MASAMT	今後、JAHISで強化してほしい活動についてお答えください。 以下の中から、あてはまるものを全てお答えください。（いくつでも） また、その中から最もあてはまるものをお答えください。（ひとつだけ）	
Q20	FA	JAHISで取り組んでほしい活動テーマがあればお聞かせください。（任意）	
Q21	FA	その他、JAHISへの期待やご要望があればお聞かせください。（任意）	
【回答者の属性】			
Q22	SA	あなたの性別をお答えください。	NEW
Q23	SA	あなたの年齢をお答えください。	
Q24	SA	あなたの勤務地をお答えください。	
Q25	SA	あなたの職種をお答えください。	
Q26	SA	あなたの業界での経験年数をお答えください。	NEW
Q27	SA	自社での役職をお答えください。	
Q28	SA	自社の社員数をお答えください。	
Q29	SA	自社のJAHIS会員種別をお答えください。	

【回答形式 凡例】

SA：単一選択

SAMT：単一選択（マトリクス形式）

MA：複数選択 ※該当なし

MASAMT：複数選択・もっとも有（マトリクス形式）

FA：自由回答

(参考) アンケート画面例

3. 調査結果（サマリー）

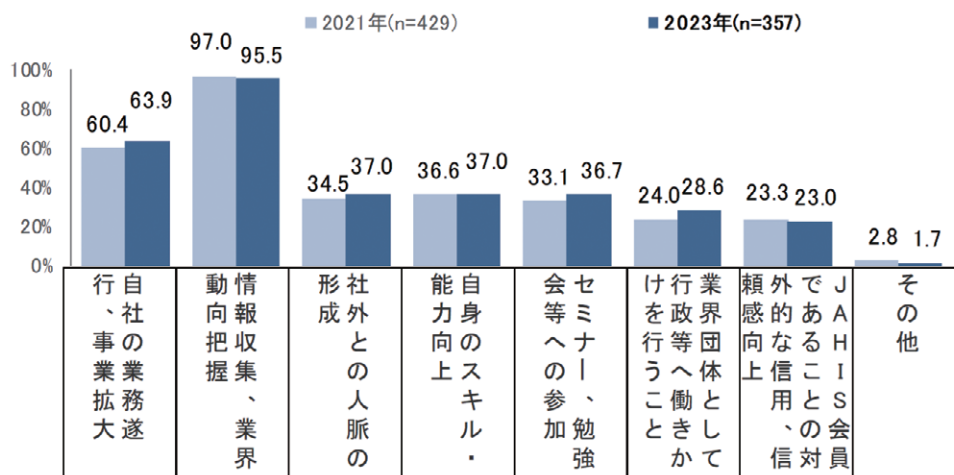
本稿では以下の3つ観点より、それぞれ代表的な調査結果をご紹介します。

- ・ JAHIS参加への目的に関すること（参加価値、メリット等）
- ・ JAHISの取り組みに関すること（役立ち度、満足度等）
- ・ 今後のJAHIS活動への期待に関すること（活動テーマ、要望等）

なお全設問の調査結果は、会員向けの報告書にて詳細報告しています。

(1) JAHISへの参加目的

まずJAHISにはどのような目的で参加しているか、7つの選択肢より複数選択で回答いただいた結果です。参加目的は「情報収集、業界動向把握」は約96%で最も高く、ほぼ全ての方が選択されています。



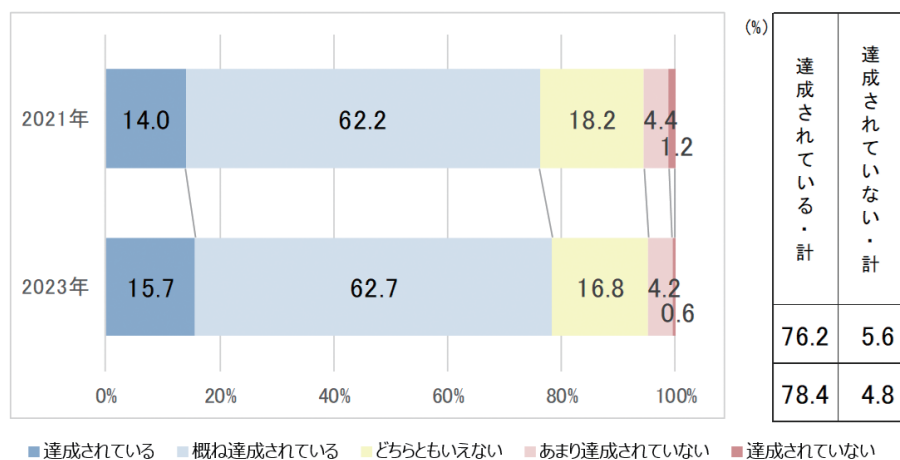
JAHISへの参加目的（複数回答）

次いで「自社の業務遂行、事業拡大」が約64%でした。「社外との人脈の形成」「自身のスキル・能力向上」「セミナー、勉強会等への参加」は4割弱の方が選択されました。2年前の調査と比較して傾向はほぼ変わらない結果となりました。なお、所属部会別でみると、参加目的の傾向に差がありました。詳細は報告書でご確認ください。

(2) JAHIS参加目的の達成度

次に、JAHISに参加していることで総合的に目的は達成しているかを伺った結果です。

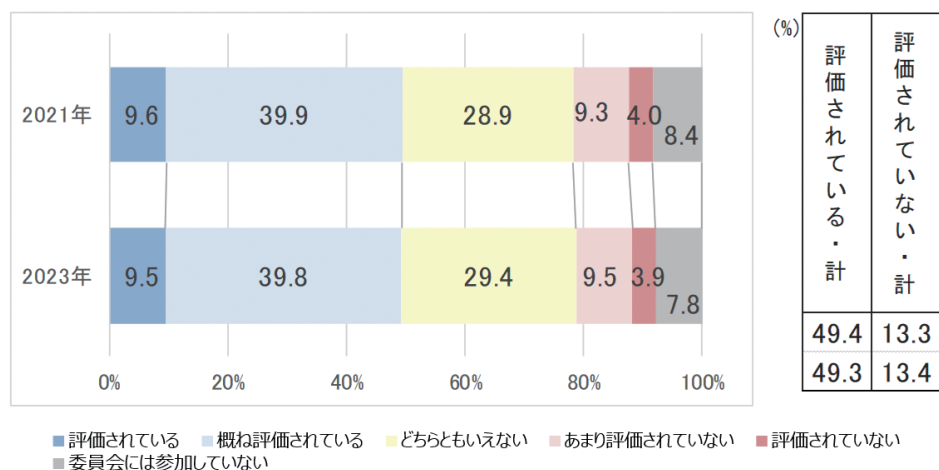
「達成されている」と「概ね達成されている」を合わせると約78%となり、約8割の方がポジティブな回答をしており、前回にひきつづき高い傾向で2.2ポイント良化しています。



JAHIS参加目的の達成度

(3) 委員会活動の自社内評価

本人が参加している委員会活動が自社内でどの程度評価されているかを伺いました。結果は「評価されている」「概ね評価されている」で約49%となり、ほぼ半数がポジティブな回答をしています。一方で「どちらともいえない」が約3割、「評価されていない+あまり評価されていない」が約13%おり、会員企業のニーズにさらに応えていく必要性がうかがえます。



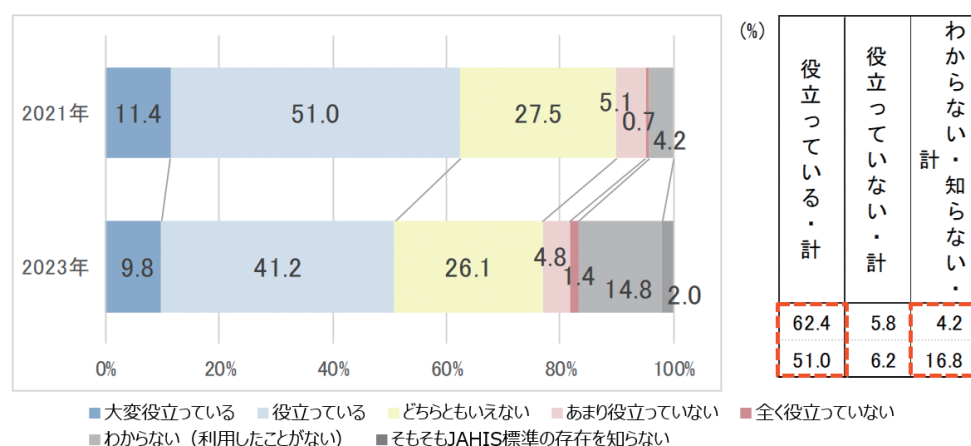
委員会活動の自社内評価

(4) 標準化活動の役立ち度

JAHIS活動の柱である標準化活動について、JAHISが提供している標準類が自社の業務にどの程度役立っているかを伺いました。「大変役立っている＋役立っている」の合計は、51%でした。2021年より11.4ポイント低下しています。

また、「役立っていない＋あまり役立っていない」と答えた方の比率は前回とほぼ変わりませんが、一方で「わからない（利用したことがない）＋そもそもJAHIS標準の存在を知らない」の合計が、前回の4.2%から今回16.8%となり約12.6ポイント増加しています。ここから標準化活動の認知度が低下している傾向がうかがえます。

なお今回のアンケートでは、「実際に使って役に立った標準名」、「使おうとしたが使えなかった標準名（およびその理由）」を自由記載で回答する設問を追加しています。この結果も参考に今後の標準化活動の改善に役立てられることを期待しています。



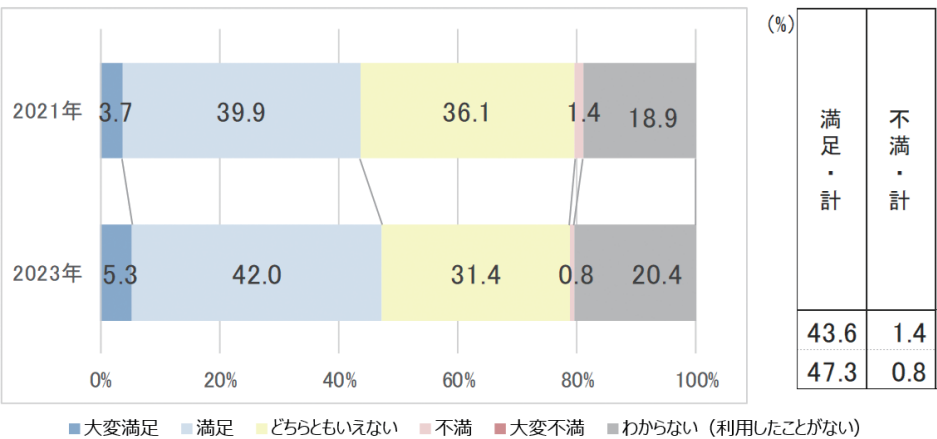
標準化活動の役立ち度

(5) 教育事業の満足度

JAHISが実施しているセミナー、勉強会等の教育事業について、どの程度満足しているかを伺った結果です。「大変満足＋満足」は約47%で約半数は満足と回答しています。前回比では満足が3.7ポイント上昇しました。

なお、教育事業の満足度は部会別、地域別、会員ランク別等に掘り下げて分析すると、満足度の傾向に差がありました。

また別設問で「セミナー、勉強会等で取り上げてほしいテーマ」を自由記載で伺っており、今後のセミナー、勉強会企画の参考になればと思います。これら詳細は報告書に記載しています。

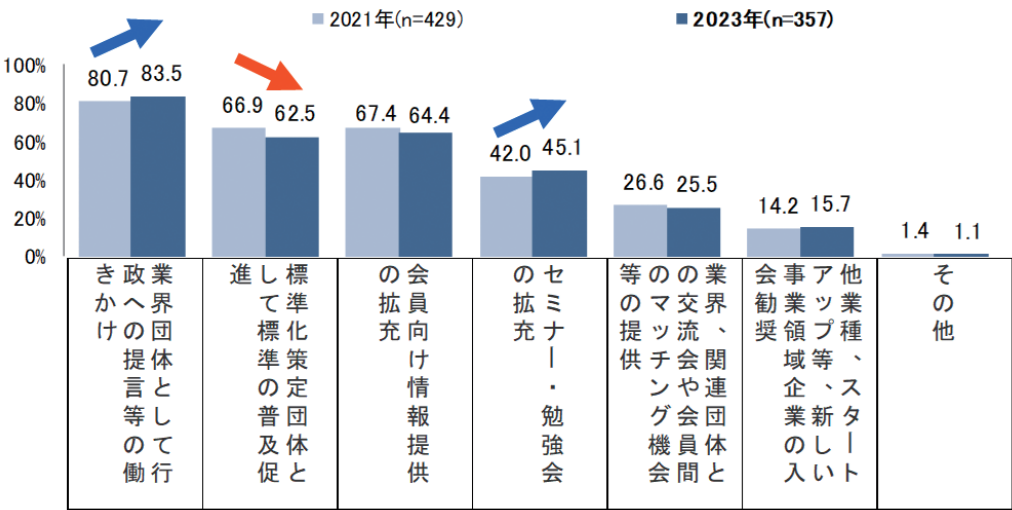


教育事業の満足度

(6) 今後強化してほしい活動

最後に「今後のJAHIS活動に期待すること」について伺った設問の結果をご紹介します。6つの選択肢より複数選択で回答いただきました。

今後JAHISに強化してほしい活動の傾向は2021年と大きく変化はありませんでしたが、「業界団体として行政への提言等の働きかけ」と「セミナー・勉強会の拡充」への期待がそれぞれ2.8ポイント、3.1ポイント上昇しました。一方で「標準化策定団体として標準の普及促進」が4.4ポイント低下しました。なお別設問で、JAHISで取り組んでほしい活動テーマを自由記載で伺っており、貴重なご意見を多数頂戴しています。



今後強化してほしい活動（複数回答）

4. おわりに

今回、2021年の第1回調査につづき第2回目の会員意識調査を実施しました。今回アンケートに回答いただいた方はJAHIS全登録者の約1割（11.7%）であり、JAHISが実施するアンケート調査では個社で実施する社員満足度調査のように強制力をかけることは難しく回答はお願いベースにならざるを得ず、回答率は低い傾向となってしまいます。しかしながら、そういった方も含めてサイレントマジョリティーのニーズを掘り起こしていくことは今後の課題のひとつだと考えています。

そして何よりも会員意識調査の目的は、アンケート結果を踏まえて今後のJAHIS活動全体や各部会、委員会等の個別の活動の改善を図っていくことが重要でありますので、総務会（会員意識調査タスクフォース）としては、JAHISの運営層および各部会幹部に丁寧に結果を伝え、JAHISが会員企業の活動にさらに寄与する業界団体となるよう微力ながら努めて参る所存です。

最後までお読みくださりありがとうございました。

国際標準化総覧 2022年度版について

標準化推進部会 国際標準化委員会 委員長
(日本電気株)

おかた しんいち
岡田 真一



1. はじめに

国際標準化総覧2022年度版を2023年3月に発行しました。国際標準化総覧は、JAHISの国際エキスパートの活動を会員の皆様に知っていただくことを目的として発行している文書です。ISO TC215、HL7、DICOM、IHEなどの国際標準化関連団体とJAHISとの関係、JAHIS国際エキスパートが開発に関わってきた国際規格など、2023年1月末時点の最新状況を記載しています。前回の2018年度版からは4年ぶりの改版となりますが、今回は2020年からのコロナ禍により、国際会議の中止や延期、海外渡航の制限など大きな制約を受けた中、時差やリモート接続などの困難な環境下で国際エキスパートが活動し、得られた情報を集約したものです。

以下、国際標準化総覧2022年度版の概要をご紹介します。

2. JAHISの国際エキスパート

JAHISからは下記の通り、22名のJAHISメンバーと3名の外部学識経験者を6つの国際標準化関連団体の本委員会や分科会に国際エキスパートとして派遣しています。

なお、HIMSSについては調査年ごとに報告書を発行しており、国際標準化総覧には含めていません。報告書をご覧ください。

3. ISO/TC215の活動

ISO/TC215は、医療情報に関わる標準化を行うための技術委員会です。TC215には下記の表に示すような作業部会（WG: Working Group）が設置されています。

国内では、ISOに関する全体的な統括は経済産業省に設置されている審議会のひとつである日本工業標準調査会（JISC: Japanese Industrial Standards Committee）が担当していますが、TC215の実務面での対応方針などの審議は医療情報システム開発センター（MEDIS DC）におかれた国内対策委員会が分担しています。

TC215は、遺伝子情報を扱うサブ委員会SC1、9つのワーキンググループとこれらを横断する「キャグ」と呼ばれる2つの上位委員会によって構成されています。JAHISはアーキテクチャーのWG1、相互運用性のWG2、医療安全のJWG7の3つのワーキンググループの国内事務局をつとめています。エキスパートの派遣はWG1、WG2、JWG7に加えてセキュリティのWG4にも行っています。

団体名	分科会	役割	2023年度（2023年5月23日～）		
			J A H I S 役職	氏 名	会社名
ISO	WG1	エキスパート（国内主査）	国際標準化委員会 委員	塚田 智	亀田医療情報㈱
		エキスパート	国際標準化委員会 特別委員	長谷川 英重	J A H I S
	WG2	エキスパート	国際標準化委員会 委員	阿部 聡	アレイ㈱
	WG4	エキスパート	国際標準化委員会 委員	茗原 秀幸	三菱電機㈱
		エキスパート	国際標準化委員会 委員	谷内田 益義	㈱リコー
		エキスパート	国際標準化委員会 特別委員	松元 恒一郎	J A H I S
		エキスパート	国際標準化委員会 委員長	岡田 真一	日本電気㈱
	JWG7	エキスパート（国内主査）	国際標準化委員会 特別委員	平井 正明	J A H I S
		エキスパート	国際標準化委員会 特別委員	松元 恒一郎	J A H I S
		エキスパート	国際標準化委員会 委員長	岡田 真一	日本電気㈱
		エキスパート	国際標準化委員会 委員	中里 俊章	キヤノンメディカルシステムズ㈱
		エキスパート	国際標準化委員会 委員	金光 暁	富士通 J a p a n ㈱
HL7	WGM	エキスパート	国際標準化委員会 特別委員	平井 正明	J A H I S
		エキスパート	国際標準化委員会 委員	茗原 秀幸	三菱電機㈱
		エキスパート	相互運用性委員会 委員	檀原 一之	日本電気㈱
DICOM	本委員会	エキスパート	検査システム委員会 委員	村田 公生	富士フイルム㈱
	本委員会	エキスパート	相互運用性委員会 委員	塩川 康成	キヤノンメディカルシステムズ㈱
	WG13（内視鏡）	エキスパート	検査システム委員会 委員	尾崎 孝史	オリンパスメディカルシステムズ㈱
	WG26（病理）	エキスパート	検査システム委員会 委員	芳賀 拓也	サクラファインテックジャパン㈱
IHE	臨床検査	PaLMドメイン・セクレタリ（正）	検査システム委員会 委員	高橋 賢一	㈱日立ハイテク
	病理	PaLMドメイン・セクレタリ（副）	検査システム委員会 副委員長	近藤 恵美	シスメックスCNA㈱
	内視鏡	内視鏡ドメイン・セクレタリ	検査システム委員会 委員	大森 真一	オリンパスメディカルシステムズ㈱
	放射線, International	エキスパート	相互運用性委員会 委員	塩川 康成	キヤノンメディカルシステムズ㈱
HIMSS		エキスパート	国際標準化委員会 委員	中野 直樹	富士通 J a p a n ㈱
		エキスパート	国際標準化委員会 副委員長	井出 大介	日本アイ・ビー・エム㈱
		エキスパート	国際標準化委員会 委員長	岡田 真一	日本電気㈱
		エキスパート	国際標準化委員会 委員	田口 剛	日本光電工業㈱
		エキスパート	国際標準化委員会 委員	雨面 晴好	セコム㈱
		エキスパート	相互運用性委員会 委員	塩川 康成	キヤノンメディカルシステムズ㈱
RSNA		エキスパート	相互運用性委員会 委員	塩川 康成	キヤノンメディカルシステムズ㈱
外部学識経験者					
団体名	分科会	役割	所 属	氏 名	
ISO	WG1	エキスパート	帝京大学	澤 智博	
	WG1	エキスパート	一般社団法人 医療データ活用基盤整備機構	岡田 美保子	
	WG2	エキスパート（国内主査）	川崎医療福祉大学	木村 通男	

表 国際標準化団体への派遣者

ISO/TC215 組織編制

事 JAHIS事務局
Ex Expert派遣

WG	組織名称	
SC1	Genomics Informatics	遺伝子情報学(2019年にWG2から独立)
WG1 事	Architecture, Frameworks and Models	Ex アーキテクチャ、フレームワークとモデル
WG2 事	Systems and Device Interoperability	Ex システム及び医療機器の相互運用性
WG3	Semantic Content	意味論的内容
WG4	Security, Safety and Privacy	Ex セキュリティ、患者安全及びプライバシー
WG6	Pharmacy and Medicines Business	薬局・調剤ビジネス
WG10	Traditional Medicines	伝統医学(中国医療以外)
WG11	Personalized digital health	パーソナライズされたデジタルヘルス(2021.6-)
JWG1	Traditional Chinese Medicine (Informatics)	漢方薬(情報学)
JWG7 (*) 事	Safe, effective and secure health software and health IT systems, including those incorporating medical devices	Ex 安全で効果的かつ安全なヘルスソフトウェアとヘルスITシステム(医療機器を組み込んだものを含む)
CAG1	Executive Council	執行評議会
CAG2	Coordination Group	アドバイザリーグループ
(*) JWG7: ISO/TC215 WG7とIEC/SC 62Aとの合同作業部会		

図 ISO/TC215の組織とJAHISの対応状況

1) WG1

アーキテクチャ、フレームワークとモデルに関する作業部会です。EHR (Electronic Health Records) の基本的な構造を中心に作業を進めています。

具体的には、EHRシステム関連(定義、コミュニケーション、アーキテクチャ、機能モデル、ユースケース)、概念フレームワーク(健康指標、医療情報プロファイリング)、識別関連、臨床データウェアハウス、医療情報標準知識管理、サマリー要件、臨床モデル、PHRシステム関連(定義、機能モデル)等が対象となっています。国際標準化総覧では、これらの中から最近作業対象となった規格について解説しています。

2) WG2

独立したシステム間における情報交換の相互運用性を確保するための標準化を目的とした作業部会です。医療分野における情報メッセージ交換および通信手段に関する規格を開発しています。

日本からの提案としては、波形の規格(MFER)、SS-MIX2に関する規格、眼科検査機器の検査データについての規格等々があります。

国際標準化総覧では、これら日本提案の規格を始め、医療機器通信規格、家庭用医療機器通信規格などの開発状況を解説しています。

3) WG4

医療情報分野における情報セキュリティを実施するうえで必要な標準を作成する作業部会です。

主に審議されている国際標準は、情報セキュリティ・プライバシーに関連する規格群、ICカードに関連する規格群、患者安全に関連する規格群に大別されます。

国際標準化総覧では、これら3つの規格群における関連規格についての解説を行っています。この中で、患者安全に関する規格についてはJWG7の節で主に解説しています。

4) JWG7

IEC TC62/62A（医用電子機器）とISO/TC215（医療情報）が共同して作業を行うJWG7が2007年1月のサンディエゴ会議から活動を開始しました。

規制対象の医療機器を含むヘルスソフトウェアをスコープとした患者安全に関する国際標準を開発しています。

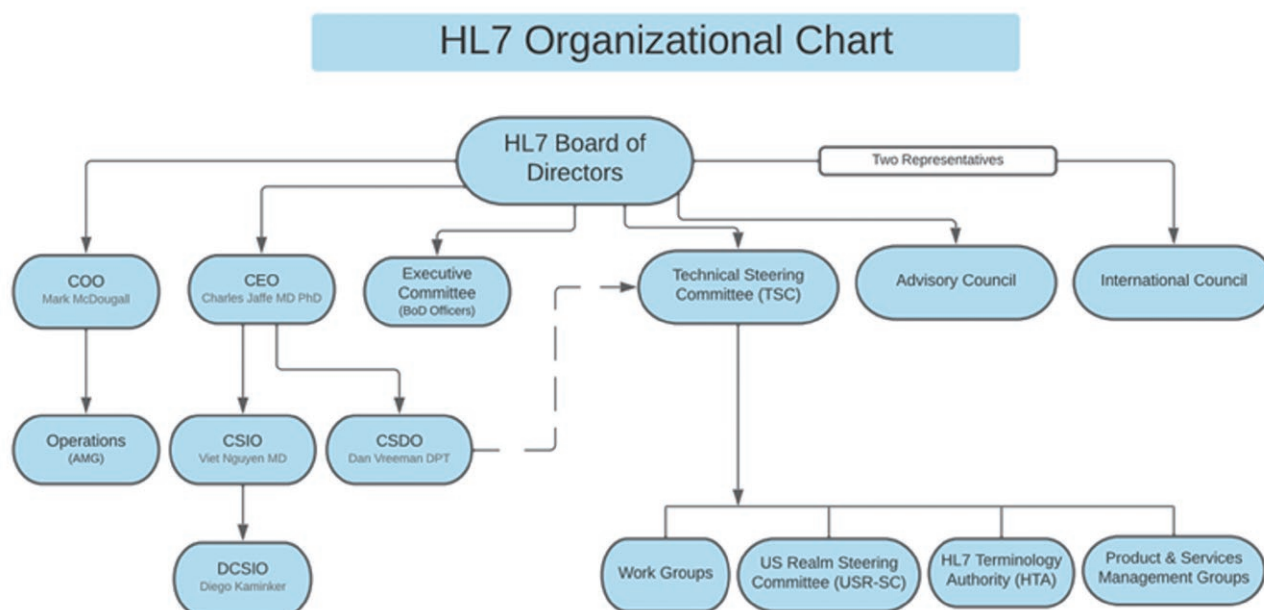
国際標準化総覧では、患者安全に関する国際規格の開発状況を解説しています。また、サイバーセキュリティに関して、日本ではIMDRFサイバーセキュリティガイダンスに準拠した対策を進めており、薬機法の各種基準の改正が行われていますが、この施策に関連する国際規格、JIS規格についての解説も行っています。

5) 新しいテーマに関する活動状況

新しく設立された個人向けデジタルヘルスの作業部会であるWG11や、作業部会になる前段階で検討中のテーマであるAI、デジタル治療などの活動状況を「国際標準化活動の課題」の節で解説しています。

3. HL7

HL7は、医療情報で広く使われる規格を開発することを目的に1987年に設立されました。



© 2022 Health Level Seven International® All Rights Reserved. HL7 and Health Level Seven are registered trademarks of Health Level Seven International
Reg. U.S. Pat & TM Off

図 HL7組織構成

日本HL7協会は、国際支部の一つとして1998年7月に設立され、事務局はJAHISに置かれています。国際標準化総覧では、HL7の戦略、組織構成、HL7の主要規格、外部団体との連携、ANSI規格になったHL7の規格、ISO規格になったHL7規格について説明しています。

4. DICOM

2007年3月、JAHISはDICOM規格を開発するDICOM標準化委員会（DICOM Standards Committee）のメンバとなりました。

DICOMはDICOM標準化委員会の下に34の作業部会（WG）があり、それぞれ専門分野の規格を開発しています。

DSC - DICOM Standard Committee	WG-18 Clinical Trials and Research
WG-01 Cardiac and Vascular Information	WG-19 Dermatology
WG-02 Projection Radiography and Angiography	WG-20 Integration of Imaging and Information Systems
WG-03 Nuclear Medicine	WG-21 Computed Tomography
WG-04 Compression	WG-22 Dentistry
WG-05 Exchange Media	WG-23 Artificial Intelligence/Application Hosting
WG-06 Base Standard	WG-24 DICOM in Surgery
WG-07 Radiotherapy	WG-25 Veterinary Medicine
WG-08 Structured Reporting and Common Data Elements	WG-26 Pathology
WG-09 Ophthalmology	WG-27 Web Services for DICOM
WG-10 Strategic Advisory	WG-28 Physics
WG-11 Display Function Standard	WG-29 Education, Communication, and Outreach
WG-12 Ultrasound	WG-30 Small Animal Imaging
WG-13 Visible Light	WG-31 Conformance
WG-14 Security	WG-32 Neurophysiology Data
WG-15 Mammography and CAD	WG-33 Data Archive and Management
WG-16 Magnetic Resonance	WG-34 Photoacoustic
WG-17 3D	

表 DICOM標準化委員会と傘下のWG

国際標準化総覧では、DICOM規格の概要、DICOM規格制定のプロセスに加えて、JAHISが参画している、内視鏡検査（WG-13）、病理画像の分野（WG-26）の活動状況について解説しています。

5. IHE

IHE（Integrating the Healthcare Enterprise）は、1999年に米国で医療情報・管理システム学会 HIMSS（Healthcare Information and Management Systems Society）と北米放射線学会（RSNA Radiological Society of North America）が中心となって設立しました。IHEの目的は標準の開発ではなく、運用ワークフローを定義し、この運用ワークフローを実装するための標準の使い方を規定した技術仕様書を提供することです。

日本においては、2001年10月に日本IHE協会が発足し、日本国内に向けて拡張した統合プロファイルやテクニカルフレームワークの策定やその普及推進、および国内でのコネクタソンの開催を行っています。JAHISは日本IHE協会設立当初からこの活動に参画しています。

国際標準化総覧では、IHEの国際体制、日本のIHE活動に加えて、JAHISが活動している、臨床検査

部門と病理・臨床細胞領域部門とが一体化された、PaLM（Pathology and Laboratory Medicine部門）の活動状況を解説しています。

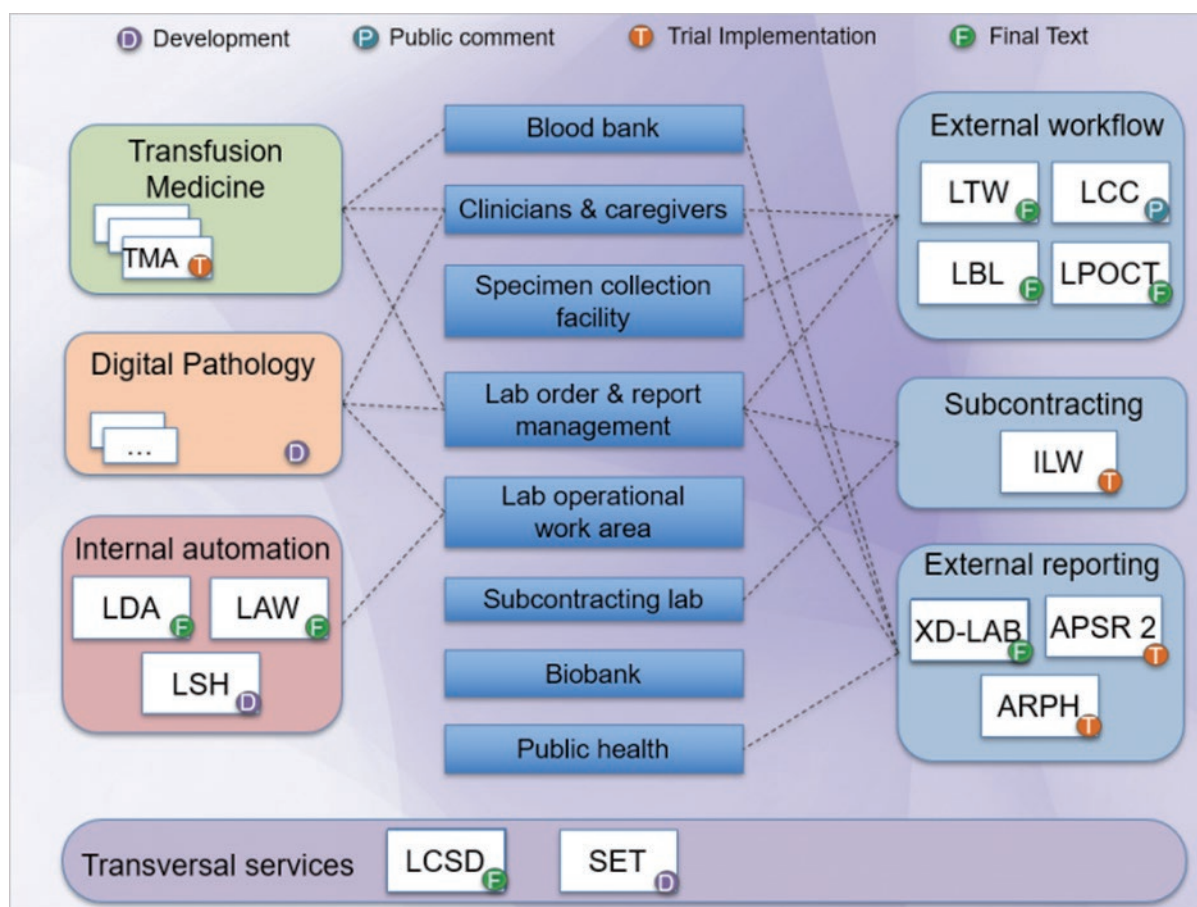


図 PaLMのプロファイル

6. おわりに

2022年度版は国際エキスパートの中から、下記の方々に執筆していただきました。なお、会社名は執筆当時（2023年1月末時点）のものです。

章・タイトル	所属・氏名
1. まえがき	キヤノンメディカルシステムズ（株） 西山 喜重
2. JAHIS を取り巻く標準化の状況	日本アイ・ビー・エム（株）井出 大介
3. ISO/TC215 の活動概要	日本電気（株）岡田 真一
3. 1 WG1	亀田医療情報（株） 塚田 智 JAHIS 特別委員 長谷川 英重
3. 2 WG2	日本光電工業（株） 松元 恒一郎
3. 3 WG4	三菱電機（株） 荻原 秀幸 （株）リコー 谷内田 益義
3. 4 JGW7	日本電気（株） 岡田 真一 日本光電工業（株） 松元 恒一郎 日本光電工業（株） 平井 正明 富士通 Japan（株） 金光 暁
4. その他の国際標準化活動	
4. 1 HL7	日本電気（株） 檀原 一之
4. 2 DICOM	富士フイルム（株） 村田 公生
4. 3 IHE	キヤノンメディカルシステムズ（株） 塩川 康成 オリンパスメディカルシステムズ（株）大森 真一 オリンパスメディカルシステムズ（株）尾崎 孝史 シスメックスCNA（株） 近藤 恵美 （株）日立ハイテク 高橋 賢一
5. 国際標準化活動の課題	日本電気（株）岡田 真一
6. あとがき	日本電気（株）岡田 真一
付録1・付録2	JAHIS 事務局 柘植 章彦

表 執筆者一覧

本文はweb公開しています。検索サイトで 国際標準化総覧 2022 と入力していただければご覧いただけます。

祝リニューアル!! 現在の医療情報システムにおける標準類オーバービューチャートに至るまで

標準化推進部会 普及推進委員会 委員
(日本電気株)
とり い みつる
鳥井 満



1. 普及推進委員会への新メンバー参画

普及推進委員会は2010年に発足した委員会で、医療情報の標準化に向けた標準類等、整備されたものを分かりやすく整理すると共に、普及という観点を全面に押し出して、営業担当者が医療情報の標準化を推進してお客様に提案していくことを支援する活動を行っております。

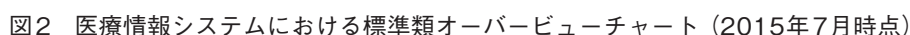
医療情報の標準化を普及する活動としては、「医療情報システムの標準化について」のパンフレットの発行及び改版の他に、直接、標準化の重要性や現時点での状況を伝える「営業向け標準化セミナー」を開催しております。現在12社、8名前後で活動を行っており、2022年度から、事務局が柘植さんに交代し、委員として、飯塚さん（NEC）、寺内さん（メディカルデータベース）が加わり、新たな感性を持った方々の意見を取り入れながらディスカッションを活発に行っております。

2. オーバービューチャートの原点

標準化を普及する手法として様々な取り組みを行ってきましたが、その中で視覚的なツールとして、「医療情報システムの標準化について」のパンフレットを作成しました。2011年に初版発行した当初は標準化に向けた組織体制や関連用語を知ることが重視しており、カードとして切り抜き持ち運べる形式を取りました。当時は紙の文化が主流の時代でしたので、紙の有効活用を最大限に発揮し効果が高かった取り組みであったと感じています。



図1 医療情報システムの標準化について
【Vol.1】（2011年3月発行）



オーバービューチャートは標準化の関係性を視覚的に表わす役割の他に、ホームページ上でオーバービューチャートを閲覧しながら、そこから直接クリックすることで標準類の情報を閲覧する仕組みを付与したことで、知りたい情報を瞬時に検索できることになりました。「視覚的にみること」、「情報の検索するポータルとしての窓口」を同時に実現したことで、オーバービューチャートの原点となりました。このタイミングで紙の文化から脱却することとなりました。

2016年1月に産声を上げたオーバービューチャートは2022年に至るまで規格や規約の追加及び変更を中心とするマイナーチェンジを行ってきました。しかし、医療業界における環境の変化が凄まじくHL7 FHIRや電子処方箋などの取り組み、新たな厚生労働省の標準規格などの認定も重なったため、今までのオーバービューチャート上での追加していくことが難しくなり、大幅に見直す必要が生じてきました。

32

こと、その情報を多くの方々に周知する必要があることです。普及推進委員会メンバーでは、このタイミングで一新するためにメジャーチェンジを行うべきということが満場一致で承認され、2022年度中にリニューアルを行うことを計画して取り組みを開始しました。

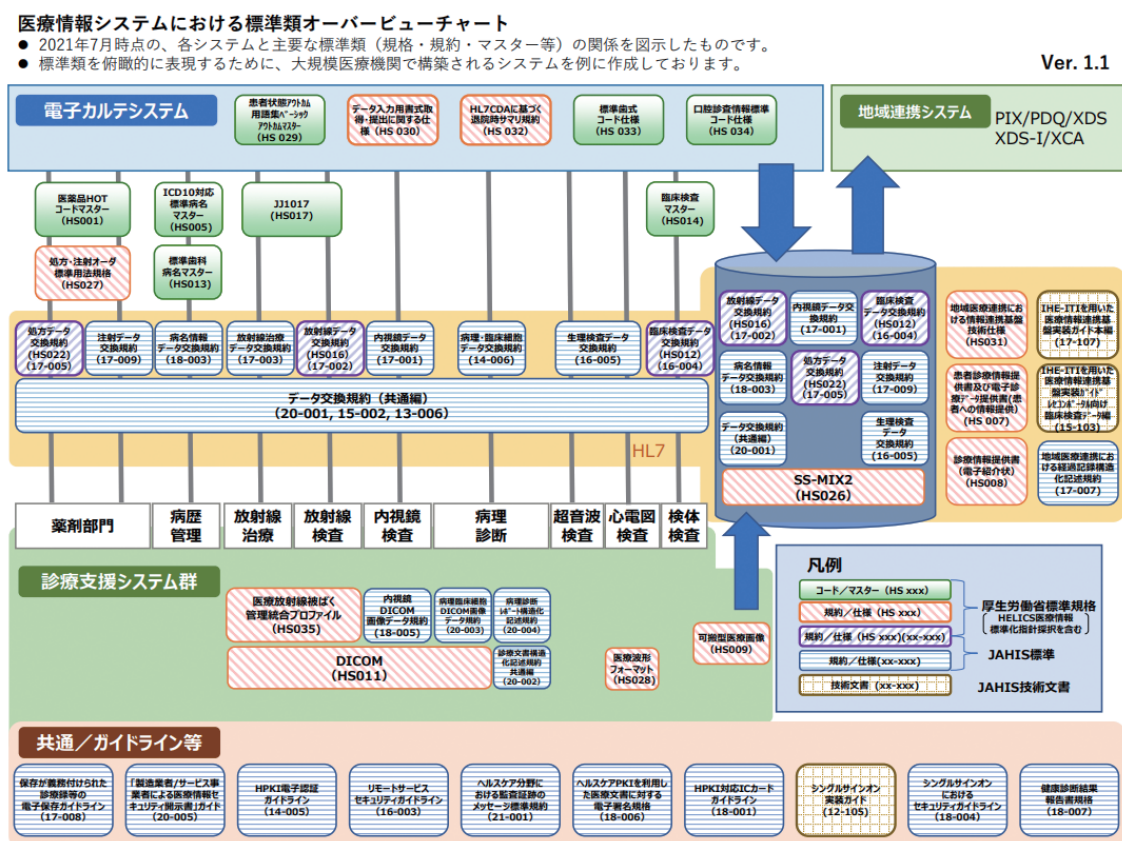


図3 医療情報システムにおける標準類オーバービューチャート（2021年7月時点）

4. リニューアル時の課題の発生および検討結果

普及推進委員会では営業向けセミナーも企画しており、2022年3月のセミナーでHL7 FHIRの関心が高かったことから、リニューアルする時はHL7 FHIRをオーバービューチャートに盛り込むことが今回の大きな柱として捉えることから企画を開始しました。その際、JAHIS内の有識者として相互運用性委員会の塩川リーダーと事業企画推進室の小林室長にご協力を仰ぎ、普及推進委員会に参加して頂く形で検討を進めることにしました。

何回にも渡り様々な議論を行った上で、最後は委員会のメンバーの強い思いを持って完成しましたが、特に議論が多かった部分を以下に記載させていただきます。

・レイアウトにおける議論

掲載する情報量が多くなることから最初はレイアウトの議論から始まりました。現在の見開きA3を継承するのか、デジタル化が進んでいることでパソコンやipadで閲覧することが主流となる画面比率16:9の横長の方が今の流行りではないかなど、意見が割れた中で進めることとなりました。大枠なイメージをパワーポイントで修正しながら進めることとし、描画エリアを大きくとれる16:9で検討を進

めましたが、最終的なレイアウトはデザイン業者に委託した結果、ユニバーサルデザインを考慮してA3での実現となりました。

・矢印における議論

前回のイメージは大きな枠組みを大きな矢印で総括的に表現していましたが、項目が増えたことで多くの矢印が必要となり複雑なものとなりました。矢印の方向、大きさ、連携、色などイメージに落とす度に矛盾が生じて、会議の毎に見直しする結果となりました。矢印の表現、重要性を再確認した上でオーバービューチャート上に表現したことは、オーバービューチャートでの標準類のつながりを示す上で大きな成果であったと感じています。

・電子カルテシステム配置における議論

前は電子カルテシステムを中心とした配置でしたが、それを継承した方が理解されやすいか、もしくは関連性を重視するために過去のデザインに捉われず一新した方が理解されやすいかなど、多くの議論を行いました。その結果、今までの配置だと矢印をうまく表現ができないことが判明したことから、最終的にはHL7 FHIR、HL7 V2、HL7 CDAを含んだHL7のカテゴリを中心とするデザインに落ち着きました。

・HL7 FHIRの配置における議論

今までは病院内における医療情報システムの連携を重視していましたが、今回はセミナーで最も関心の高かったHL7 FHIRを盛り込み、施設間の連携を分かりやすく表現することを重視しました。

配置や矢印に様々な意見があり一番検討に時間がかかった部分でもあります。今回はHL7 FHIRによる記述仕様書の記載について、現時点で厚生労働省標準規格に採択された4文書だけをHL7 FHIRを一箇所に集約することで、若手の営業担当者が分かりやすい形で表現しております。

・技術文書の表現における議論

JAHISの技術文書をどこまでオーバービューチャート上に掲載するのかの議論が行いました。全て記載すると表現がしづらいし見えづらくなってしまう、逆に対象外とするとオーバービューチャートの表現としては妥当ではないのではないか、また、若手営業担当者に対する標準化の普及という観点においては技術文書を全て網羅して表示すべきという意見があがりました。最終的にはWEBでの参照を前提として、吹き出しによるリンクを貼ることで全体をカバーする方向となりました。オーバービューチャートの原点である「情報の検索する窓口」を活かした形で実現しています。

最終的な現在ホームページで掲載されている形は以下の通りです。

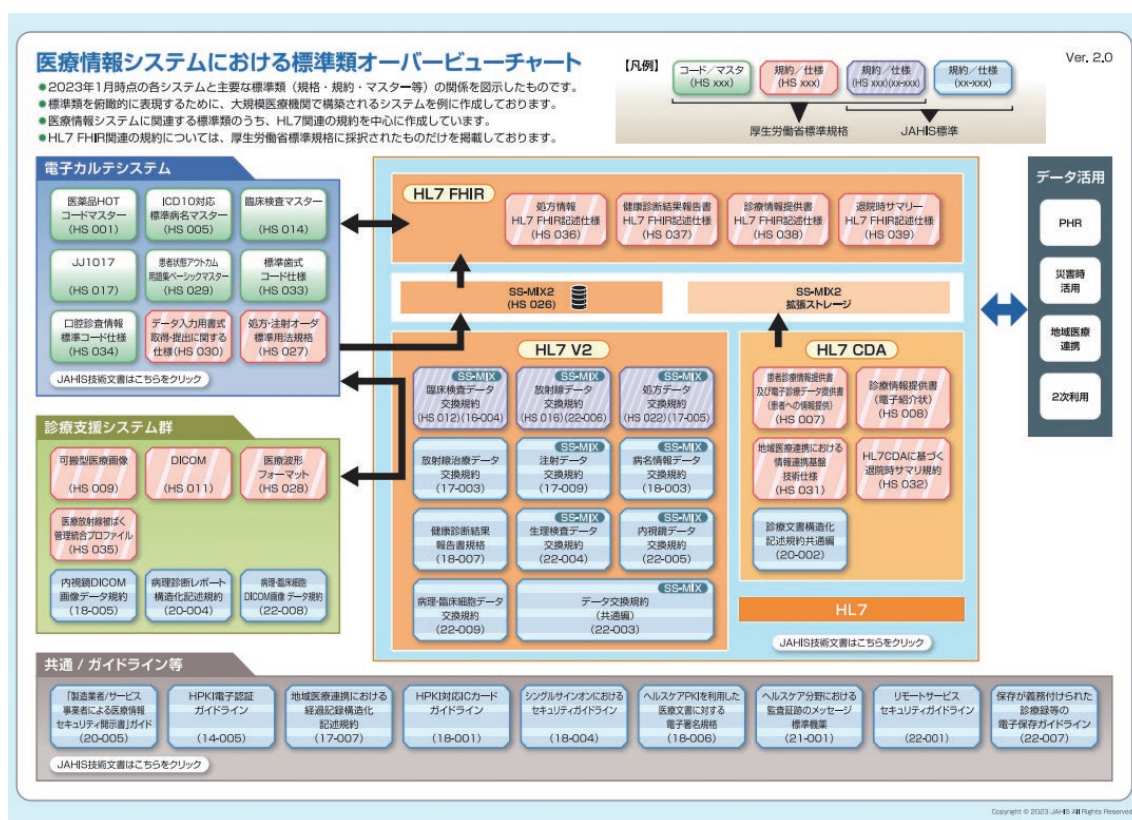


図4 医療情報システムにおける標準類オーバービューチャート最新版（2023年7月時点）

5. 今後に向けて

まずはオーバービューチャートをリニューアルしたことを全面的に伝えることが重要だと考えております。早々にJAHIS会員へのメーリングリストにて更新したことを連絡させて頂いております。先日、医療施設にてオーバービューチャートを利用してHL7 FHIR記述仕様が採用されたことを説明している場を目にすることが出来ました。確実に利用され始めていると感じております。

今後の情報化においては、ホームページでのサイトを中心として閲覧して情報検索を行って頂くことを重視しております。各種イベントにて紙に印刷したものに2次元バーコードを付与し、最終的にサイトに誘導して閲覧して頂く、利用して頂くことを目的に普及活動を継続して行っていく予定です。

6. 最後に

医療情報の標準化の取り組みを営業担当者がしっかり理解して、その上で担当者が標準化を普及していく行動を自らが起こし実践していくことが重要であると考えております。

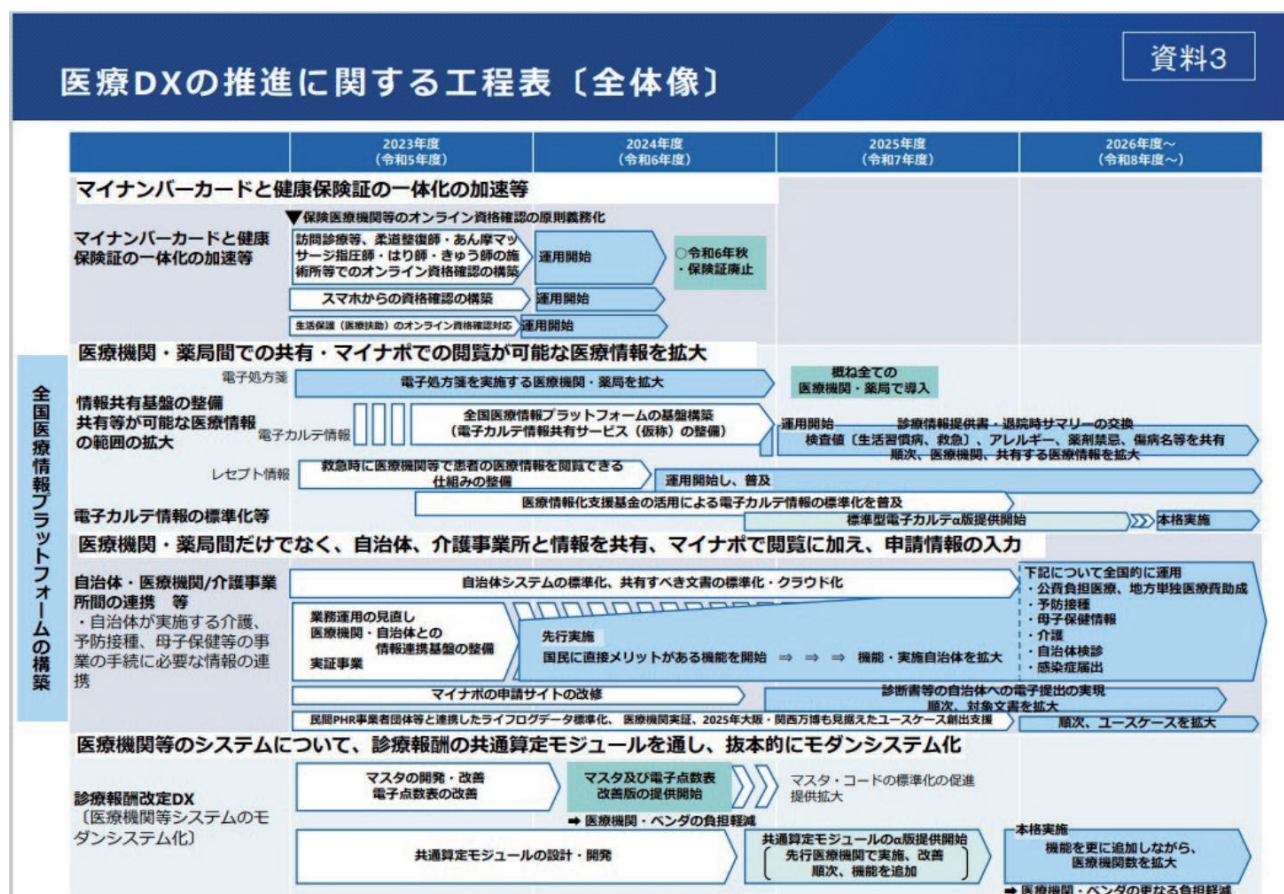
今年度の活動は、最新版のオーバービューチャートの意見を収集して必要に応じて随時見直しを図っていくこと、また、昨年度実施できなかった営業向けセミナーを開催していく予定です。是非、多くの人にご参加頂けるよう魅力ある企画を検討していきますので、引き続き、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

最後にオーバービューチャートの作成におきまして、数々の関係者からご協力、ご支援を頂きましたことを厚く御礼を申し上げます。

診療報酬改定DXへの取り組み

医事コンピュータ部会

6月2日、内閣総理大臣を本部長とし関係閣僚により構成された『医療DX推進本部』によって「医療DXの推進に関する工程表」が公開されました。同月16日には、「経済財政運営と改革の基本方針2023」（骨太方針2023）が経済財政諮問会議での答申を経て、閣議決定され、この工程表に基づき、国を挙げて医療DXの実現を推進していくことが明確となりました。



[引用] 医療DX推進本部（第2回） 資料3 医療DXの推進に関する工程表（案）（全体像）より

医事コンピュータ部会においては、「医療DXの推進に関する工程表」に記載されている「診療報酬改定DX」が大きな関心事の1つとなります。「診療報酬改定DX」については、2022年4月19日に、JAHISが自民党の社会保障制度調査会とデジタル社会推進本部の「健康・医療情報システム推進合同プロジェクトチーム」（自民党PT）への提案が発端です。その後、「経済財政運営と改革の基本方針

2022」(骨太方針2022)に「診療報酬改定DX」が盛り込まれ、その検討のために厚生労働省内に設置された『「診療報酬改定DX」タスクフォース』からの意見聴取に医事コンピュータ部会を中心にJAHISとして応じてきました。

JAHISの意見は、自民党PTで提案した

①【診療報酬情報デジタル化】

現在の大量の紙ベースかつ文章ベースの診療・調剤報酬情報を容易にプログラム利用できるような形にデジタル化。

②デジタル化の実現方法として【診療報酬算定モジュール】

診療・調剤報酬の点数・患者負担金計算に係るプログラム・ロジックをベンダーが共通利用できるようモジュール化。

③モジュール化の効果最大化のための【診療報酬改定作業ピーク抑制化】

診療・調剤報酬改定作業のピーク抑制と品質のさらなる向上のため、現在のスケジュールを見直す。

がベースとなりました。



JAHISからの提案

①【診療報酬情報デジタル化】

現在の大量の紙ベースかつ文章ベースの診療・調剤報酬情報を容易にプログラム利用できるような形にデジタル化。

② デジタル化の実現方法として【診療報酬算定モジュール】

診療・調剤報酬の点数・患者負担金計算に係るプログラム・ロジックをベンダーが共通利用できるようモジュール化。

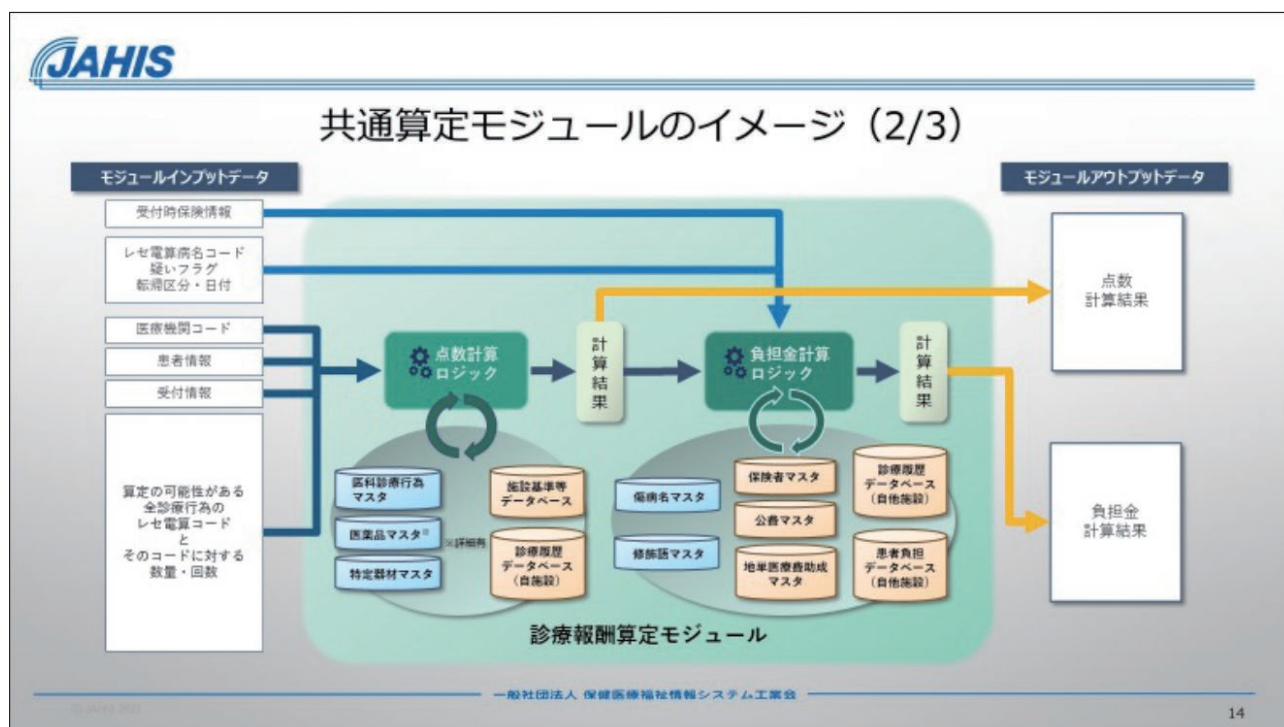
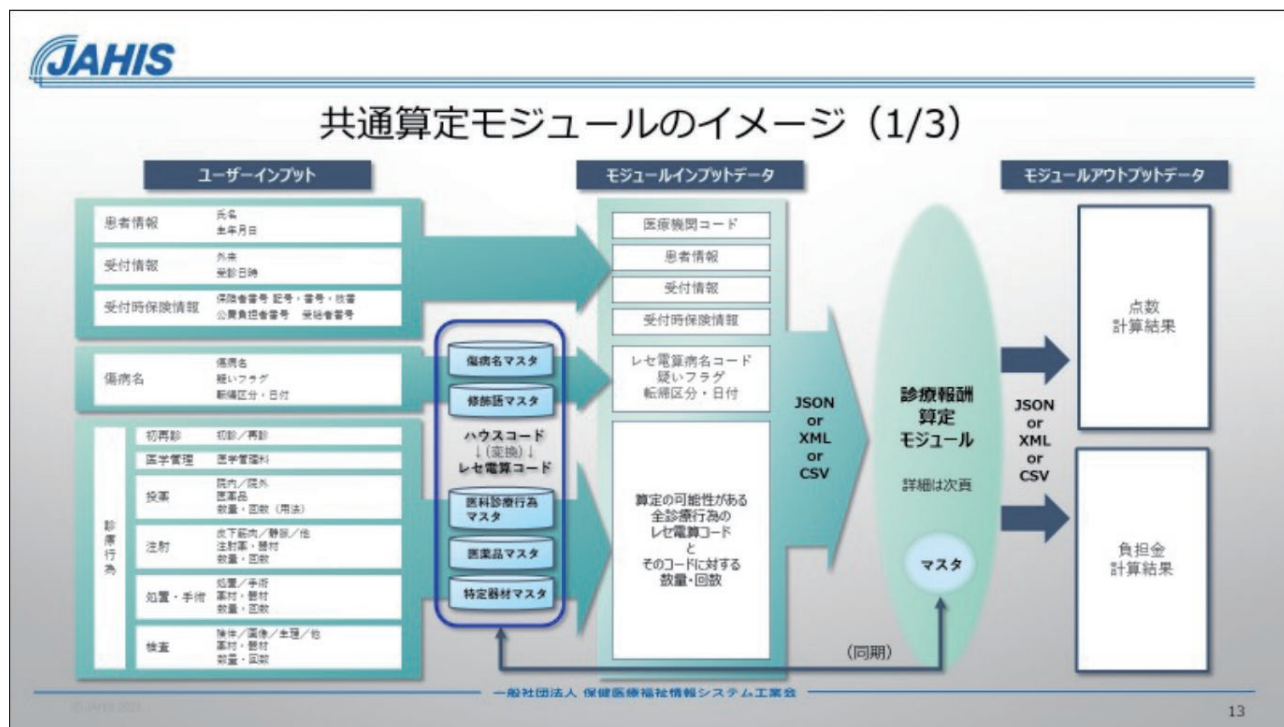
③ モジュール化の効果最大化のための【診療報酬改定作業ピーク抑制化】

診療・調剤報酬改定作業のピーク抑制と品質のさらなる向上のため、現在のスケジュールを見直す。

上記の三点を診療報酬改定DXと位置付け、医療機関を含めた産官学で協力して推進。

技術仕様や医療機関での運用に関する整理・検討について、JAHISも積極的に参加。

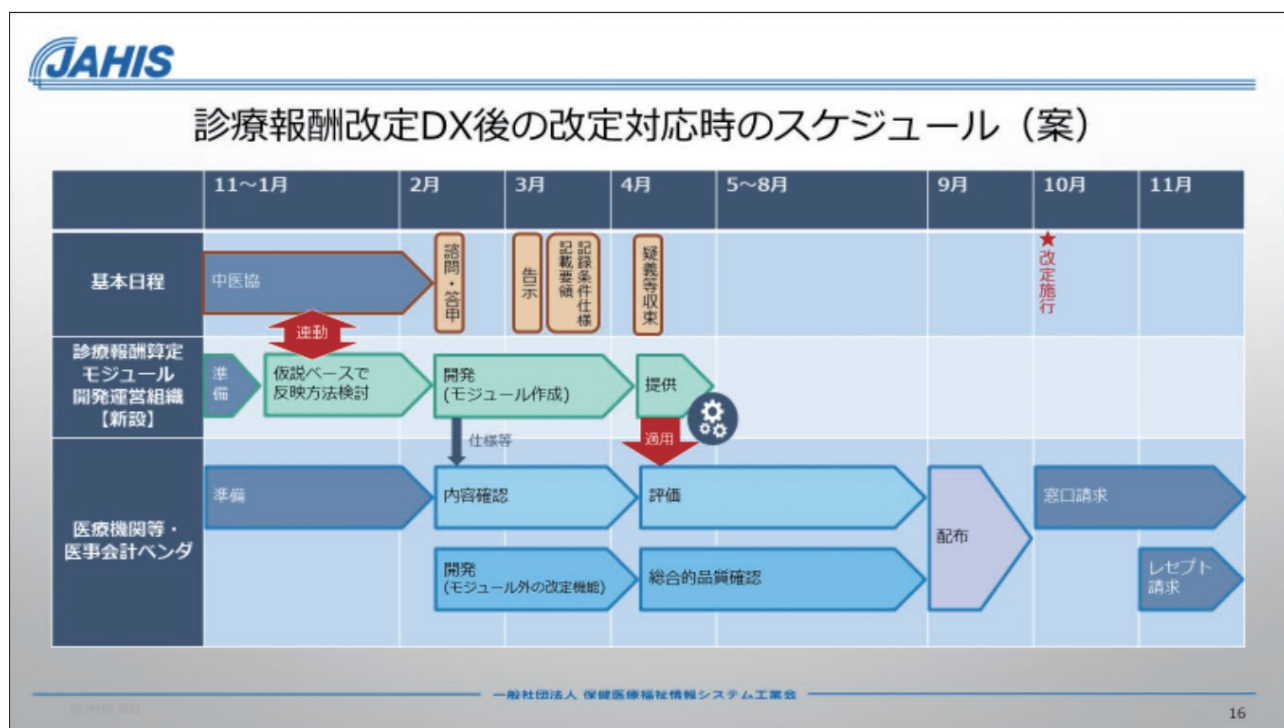
その上で、病院及び医科診療所を例に、次のようなイメージ図をJAHISから提示しました。



簡単にまとめると、診療報酬点数と患者負担金の計算を実施できるモジュールと、それを支える各種マスタ整備を要望しました。マスタについては、既に基本マスターが提供されていますが、その課題を次のように提起し、改善を要望しました。



さらにこれらの効果を最大化するため診療報酬改定の施行時期の後ろ倒しの案も示しました。



これらJAHISからの意見具申後、最終的には『「診療報酬改定DX」タスクフォース』によって、『診療報酬改定DX対応方針』がまとめられ、4月6日に第3回「医療DX令和ビジョン2030」厚生労働省推進チームによって承認されました。『診療報酬改定DX対応方針』は次の通りです。

診療報酬改定DX対応方針（案）

診療報酬改定DXの射程と効果

○ **最終ゴール**
 進化するデジタル技術を最大限に活用し、医療機関等における負担の極小化をめざす
 ・共通のマスタ・コード及び共通算定モジュールを提供しつつ、全国医療情報プラットフォームと連携
 ・中小病院・診療所等においても負担が極小化できるよう、標準型レセプトコンピュータの提供も検討

4つのテーマ ○最終ゴールをめざして、医療DX工程表に基づき、令和6年度から段階的に実現

共通算定モジュールの開発・運用 ○ 診療報酬の算定と患者負担金の計算を実施 ○ 次の感染症危機等に備えて情報収集できる仕組みも検討	共通算定マスタ・コードの整備と電子点数表の改善 ○ 基本マスタを充足化し共通算定マスタ・コードを整備 ○ 地単公費マスタの作成と運用ルールを整備
標準様式のアプリ化とデータ連携 ○ 各種帳票※1の標準様式をアプリ等で提供 ※1 医療機関で作成する診療計画書や同意書など。 ○ 施設基準届出等の電子申請をシステム改修により更に推進	診療報酬改定施行時期の後ろ倒し等 ○ 診療報酬改定の施行時期を後ろ倒しし、システム改修コストを低減 ※施行時期・施行年度については中医協の議論を経て決定 ○ 診療報酬点数表のルールの明確化・簡素化

○ **財政効果** XXXX億円
 ・ベンダに生じる負担軽減効果については、運用保守経費等の軽減を通じて医療機関等に確実に還元されるよう求める。
 ※関係団体に要請するための確固たる根拠づくりのため、この夏までに財政効果について引き続き精査・検証。

〔引用〕「医療DX令和ビジョン2030」厚生労働省推進チーム（第3回） 資料2 診療報酬改定DX対応方針（案）より

『共通算定マスタ・コードの整備と電子点数表の改善（基本マスタを充足化し共通算定マスタ・コードを整備。地単公費マスタの作成と運用ルールを整備）』については、JAHISの意見が反映されたものと考えています。『共通算定モジュールの開発・運用』については、確認していくべき点やそれを実現していくために検討すべき課題があると感じるものの、方向性は一致していると考えています。『診療報酬点数表のルールの明確化・簡素化』や『施行時期・施行年度については中医協の議論を経て決定』という記載も、大いなる前進と考えています。『施設基準届出等の電子申請をシステム改修により更に推進』についても、JAHISから提案したものです。

一方で、『全国医療情報プラットフォームと連携』や『標準型レセプトコンピュータの提供』といったJAHISとして注視すべきキーワードも出てきました。

最後に、「医療DXの推進に関する工程表」に戻ってみてみると、今年度（令和5年度）は、『マスタの開発・改善、電子点数表の改善』が行われていき、それが来年度（令和6年度）の診療報酬改定で提供されることが見込まれます。ここはJAHISとしてしっかり情報収集と関係機関への意見具申を行っていきたいと考えています。また平行して『共通算定モジュールの設計・開発』も進行していくため、情報収集と会員様への情報発信を行いつつ、必要な意見具申も行っていきます。

JAHIS、特に医事コンピュータ部会としては、

1. 診療報酬改定作業をデジタル時代に相応しい姿に変革し
2. 診療報酬改定に関わる全てのステークホルダーがその恩恵を享受できることを目指して引き続き積極的に活動していく所存です。

皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

医師の働き方改革～タスク・シフト／シェア～ において臨床検査システムに期待されていること

医療システム部会 検査システム委員会
臨床検査システム専門委員会 専門委員長
(アイテック阪急阪神様)

うつ ぼ あきのり
打保 昭典



1. はじめに

2023年2月にハイブリッドで開催致しました、臨床検査システム専門委員会・病理・臨床細胞部門システム専門委員会合同勉強会「医師の働き方改革～タスク・シフト／シェア」にて知り得たこと・考えるべきことをご紹介します。「2024年4月からの改正医療法施行による、医師業務の一部の移管・共同実施、多職種連携医療を目指す動き、その中における臨床検査技師の大きな業務拡大の可能性、及び臨床検査システムの変革の現実性を知りたい」がテーマ選定理由となります。

2. 医師の働き方改革～タスク・シフト／シェアとは

医師の労働状況は深刻な状況となっております。診療時間外や休日にも業務を行う医師が多く、長時間労働に陥りがちな医師の健康の確保、仕事と家庭の両立を実現するために「医師の働き方改革」が2024年度4月から厚生労働省にて制度化されます。タスク・シフト／シェアとは、看護師や臨床検査技師、薬剤師などの医療従事者がそれぞれの専門性を活かせるよう業務分担を見直すことで、医師の負担軽減と同時にチーム医療の水準を上げることを目指しています。

タスク・シフト、タスク・シェアの意味合いは以下の様に異なります。

タスク・シフトとは、看護師や薬剤師、臨床検査技師など他職種に、医師の業務の一部を任せる「業務移管」を指します。医師の業務を移管することから実施に当たっては法改正・研修受講が必要となります。タスク・シェアは、医師の業務を複数の他職種で分け合う「業務共同化」を指します。タスク・シフトが特定の人物に業務を任せる一方で、タスク・シェアは職種を超えて業務を分け合う意味合いとなります。

3. 臨床検査技師におけるタスク・シフト／シェアはなにか？

臨床検査技師が担うタスク・シフト／シェアについては、日本臨床検査技師会から以下が提案されています。

1) 現行制度下で実施可能な業務

- (1) 検査に関連する薬剤等の内服介助
- (2) 輸血等に関する業務
- (3) 病理・細胞診に関する業務
- (4) 診療の補助・介助等に関する業務
- (5) 生理学的検査に関する業務など

2) 法令改正を伴うことで実施可能な業務（資格法に付随し、研修等により安全性を担保できる）

- (1) 医療用吸引器を用いて鼻腔、口腔又は気管カニューレから喀痰を採取する行為
- (2) 内視鏡用生検鉗子を用いて消化管の病変部位の組織の一部を採取する行為
- (3) 運動誘発電位検査
- (4) 体性感覚誘発電位検査
- (5) 持続皮下グルコース検査
- (6) 直腸肛門機能検査
- (7) 採血を行う際に静脈路に接続されたチューブにヘパリン加生理食塩水を充填する行為
- (8) 採血を行う際に静脈路に点滴装置を接続する行為
- (9) 採血を行う際に静脈路に血液成分採血装置を接続する行為等
- (10) 超音波検査のために静脈路に造影剤注入装置を接続する行為等

これらの病棟・外来・処置室等で医師が実施している業務について、法令等の改正により臨床検査技師の業務範囲が拡大されると、臨床検査技師へのタスク・シフトが可能となり医師の働き方改革に寄与できると言われております。

4. 臨床検査システムがタスク・シフト／シェアに貢献すべきこと

前述の業務を臨床検査技師が行う場合、業務は検査室内ではなく患者がいる病棟・外来・処置室等での業務となります。臨床検査システムは、臨床検査技師の業務支援を行うことが大前提であることから、臨床検査技師の業務範囲が広がるのであれば、システムとしての業務支援範囲を広げる必要があります。医師から業務の移管・共同化するのであれば、医師同等の医療の質を担保する必要があり、臨床検査システムで担保することが不可欠です。以下は想定される臨床検査システムに必要な機能となります。

- 1) 病棟・外来検査実施記録
- 2) 検査スケジュール管理
- 3) 患者の最新情報把握の為の各部門システムとの連携、及びDWH連携
- 4) 検査器具・装置等のメンテナンス管理・精度管理

これらは電子カルテの機能拡張でも実現は可能とは思いますが、臨床検査業務として必要なデータを豊富に蓄える臨床検査システムへシームレスに機能実装することで、効率よく臨床検査技師への業務支援が出来ると考えます。また検査室外で動き回る臨床検査技師が利用する為、タブレットでスマートに利用可能にするのが理想と考えます。

5. おわりに

臨床検査技師が医師とのタスク・シフト／シェアを行うには研修会受講、及び業務が広がることでの臨床検査技師が感じる「不安・負担・不満」があり、普及は徐々に進んでいる状況です。システムベンダーとしては、医療の質を担保すると同時にこれらの「不安・負担・不満」を少しでも緩和できるようなサポートも出来ると良いと考えます。今後も専門委員会の皆で良い知恵を出し合い、患者、医療従事者、ベンダー皆さんの為になる様な活動をしていきたいと思っております。

地域医療連携を促進する 技術の動向



保健福祉システム部会
地域医療システム委員会 委員長
(富士通Japan株)

たなか よしき
田中 良樹



保健福祉システム部会
地域医療システム委員会 副委員長
(富士フイルムヘルスケア株)

みつぎ もとひろ
光城 元博

1. はじめに

わが国の喫緊の課題であり、今後は世界各国が直面するであろう「超少子高齢・人口減社会」に挑むためには、医療・介護現場の人材不足を補うICT・AIなどを活用した生産性の向上とともに、子どもから現役世代、高齢者に及ぶすべての世代が、身体的・社会的にも健康であり、住み慣れた地域で自分らしく生活し続けることを支援する、デジタル技術の利活用が求められています。本稿では国の医療DXなどの動向、地域医療連携情報システムの技術動向などを踏まえ、今後の地域医療連携の在り方について述べます。

2. 国の医療DXと医療情報連携に関する技術動向

政府は、国策として「医療DXの推進」を示しました。具体的には、保健・医療・介護の各段階（疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など）において発生する情報やデータに関し、全体最適された基盤を構築し、活用することを通じて、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えていくことをめざしています¹。また厚生労働省は、データヘルス改革の工程表に示した「全国的に電子カルテ情報を閲覧可能とするための基盤」の整備を進めています。医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）の医療情報標準化指針に採択されたのち、厚生労働省標準規格に定められたHL7 FHIR（Health Level Seven Fast Healthcare Interoperability Resource）記述仕様4文書のうち3文書（診療情報提供書、退院時サマリー、健診結果報告書）と6情報（傷病名、アレルギー、感染症、薬剤禁忌、検査、処方）をオンライン資格確認システムのネットワークを通じて医療機関へ送信する「全国医療情報プラットフォーム」の検討を進めています。さらに、医療情報項目の拡張や介護、難病、予防接種などの情報も連携する将来像が示されています（図1）。

これらの国策の実現には、医療情報項目の拡張に向けた標準類のさらなる整備や、医療機関における標準化対応の人材確保やコスト負担、オンライン資格確認等システムのネットワークと自治体ネットワークとの連携方法、ガバメントクラウド上での運用が予定されている公共サービスメッシュⁱⁱ⁾との連携方法、閲覧・共有することが適切な介護情報の選定や記録方法の標準化などの課題解決が必要です。

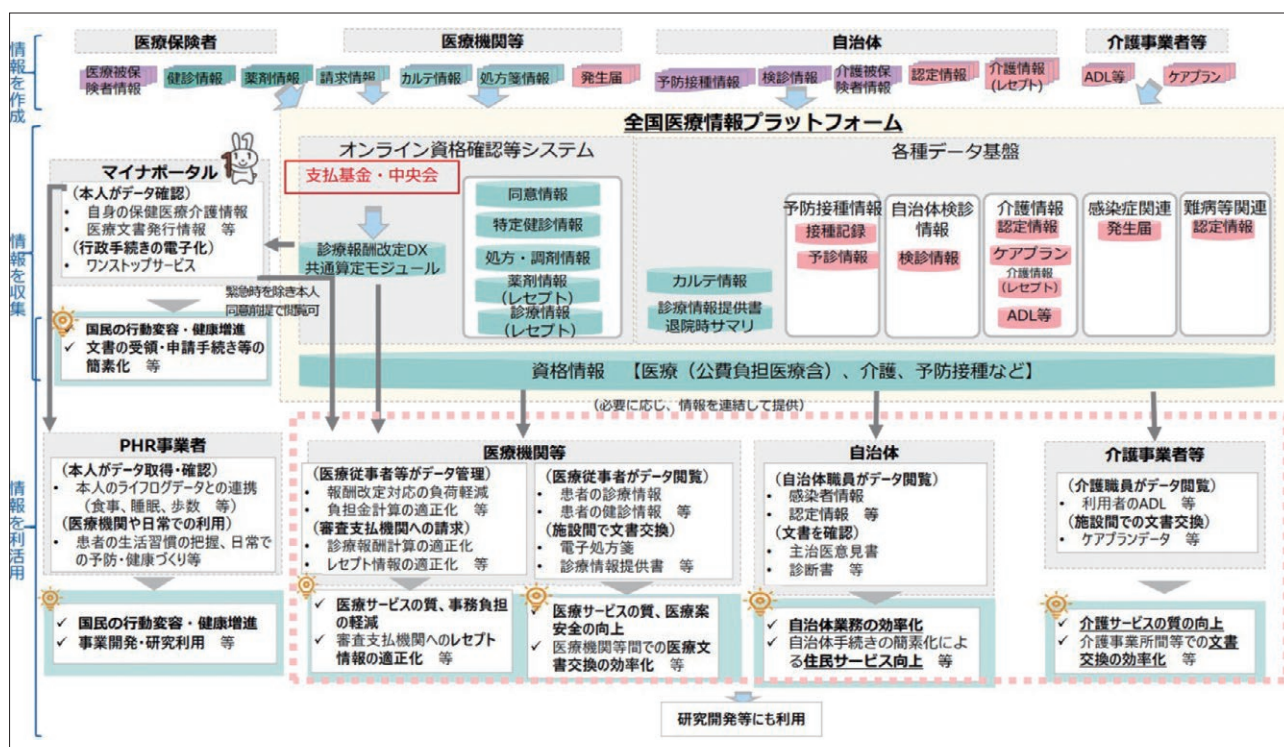


図1 全国医療情報プラットフォーム将来像
(厚生労働省資料ⁱⁱⁱ⁾より引用転載)

3. 地域医療連携情報システムに関する技術動向

地域医療再生基金とその後の地域医療介護総合確保基金の後押しで、地域医療連携情報システムの導入が急速に進んでいます。基金を活用する条件として、厚生労働省標準規格等の実装が示されたことから、HELICS医療情報標準化指針^{iv)}である「SS-MIX2ストレージ仕様書および構築ガイドライン(HS026)」や「地域医療連携における情報連携基盤技術仕様(HS031)」、「医療におけるデジタル画像と通信(HS011)」を採用した地域医療連携情報システムが普及しました。

JAHISにおいては、地域連携でよく参照されている「経過記録」をHL7 CDA (Clinical Document Architecture) で実装することを目的とした「JAHIS地域医療連携における経過記録構造化記述規約 Ver.1.0 (17-007)」を制定しました。また「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド(17-107)」を制定し、PIX/PDQ (Patient Identifier Cross-referencing/Patient Demographics Query) などの各プロファイルをどのように実装するべきか明確にしました^{v)}。

4. 今後の地域医療連携情報システムと医療DX推進上の課題

地域の医療機能分化と情報連携の推進を目的に、地域の医療資源等の実情にあわせて普及が進んでいるSS-MIX等を採用する地域医療情報連携システムと、国が整備を進めるHL7 FHIRを採用する全国医療情報プラットフォームは、それぞれの特徴を生かし、地域の特性に応じて共存が進んでいくと考えられます（図2）。

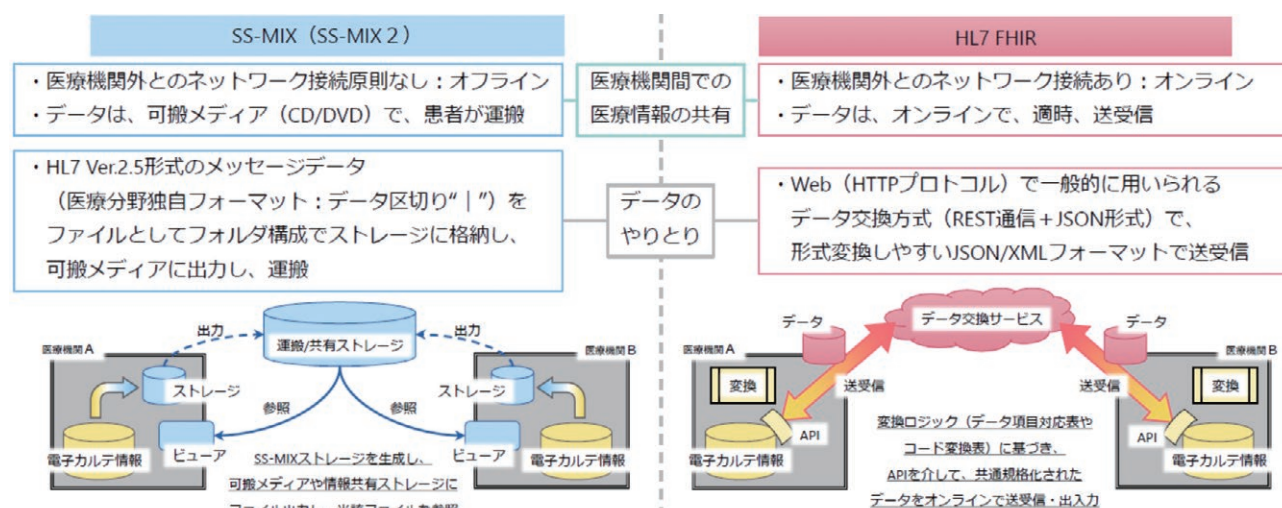


図2 SS-MIXとFHIRの特徴
(厚生労働省資料^{vi}より引用転載)

超少子高齢・人口減社会が進むなかで、限られた社会保障資源を有効に活用し、次世代のために持続可能な社会をつくるためのデジタル基盤として、地域医療情報連携システムと全国医療情報プラットフォームの発展と共存を願います。

- i. 第543回 中央社会保険医療協議会総会資料（2023年5月1日閲覧）
- ii. デジタル庁 トータルデザイン実現に向けた公共サービスメッシュ等の検討について（2023年5月1日閲覧）
https://www.soumu.go.jp/main_content/000778962.pdf
- iii. 厚生労働省 第1回「医療DX令和ビジョン2030」厚生労働省推進チーム資料（2023年5月1日閲覧）
<https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/000992373.pdf>
- iv. HELICS医療情報標準化指針
<http://helics.umin.ac.jp/helicsStdList.html>
- v. JAHIS標準
https://www.jahis.jp/standard/contents_type=33
- vi. 厚生労働省 第4回健康・医療・介護情報利活用検討会 医療情報ネットワークの基盤に関するワーキンググループ資料（2023年5月1日閲覧）
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_25695.html

事業推進部 事業企画委員会 書籍「医療情報システム入門」 出版事業のご紹介 ～病院の情報システムがこの一冊で しっかりわかる!～



事業推進部 副部長 兼 事業企画委員会 副委員長
(コニカミノルタ株)

お が わ ゆ う だ い
小川 雄代

1. はじめに

今年の2月にJAHIS書籍「医療情報システム入門 2023」を発刊いたしました。本稿では、事業推進部での出版事業と、本書籍の発刊、拡販の取り組みについてご紹介いたします。

事業推進部では、教育事業の一環として「医療情報システム入門コース」を毎年開講し、その幅広い講義内容は毎回好評をいただいております。コロナ禍もあり、2020年度からはWEB形式での開催になっておりますが、全国のJAHIS会員企業、医療機関の方々に多くご参加いただいております。本書籍は、その入門コースでの講義資料と講義内容をまとめたものです。2008年の初版刊行以降、前版まで計6版を発刊し、累計販売数は約14,000冊となっております。特に、前版では拡販検討会を行い、「教育機関へのPR強化」をJAHIS側から提案し、発行元の(株)社会保険研究所様より、対象を増やし医療系教育機関様へのPRを行って頂けました。本書を教育用のテキストとして多くご採用いただけるようになり、前版では専門書としては大台となる「4,000冊」を超える販売数となりました。

《医療情報システム入門の概要》



**JAHIS主催の講座
「医療情報システム入門コース」**
※2020年度以降はWEB形式で開催

講義内容
講義資料



1冊に
凝縮!



【目次概要】※B5判304ページ

1. 医療をめぐる動向ガイダンス
 2. 医療機関における医療情報システム
 3. 電子カルテシステム
 4. 医事会計システム
 5. 部門システム
 6. 院内物流システム
 7. 検査システム
 8. 医用画像システム
 9. 医療情報システムの患者安全に関するリスクマネジメント
 10. プライバシーとセキュリティ
 11. 地域医療システム
- 医療情報システムの標準化について
発行：(株)社会保険研究所

2.「医療情報システム入門 2023」発刊に向けた取り組み

2022年3月から今年の2月の発刊まで計10回の検討会を開催しました。主な検討内容を以下に記します。制作頂いた（株）社会保険研究所の皆様、各単元を執筆頂いた各委員会の皆様、いつも活動を支えて頂いている事務局の皆様に この場を借りて深く御礼申し上げます。

＊原稿の作成・JAHIS側での校了の確認、課題検討

＊表紙デザインの検討

＊その他、寄稿頂く方への対応、発刊と合わせたPR検討など

ここでは今回の新刊「医療情報システム入門 2023」で新たに取り組みました「表紙デザインの検討」についてご紹介いたします。今回の新刊では、発行元、事業推進部の皆様と検討し新たに以下の内容を表紙デザインに盛り込みました。

①サブタイトルの追加：「病院の情報システムを基礎から学ぶ」

⇒ 書籍の特徴や対象読者を表現できるサブタイトルを追加

②表紙デザインの刷新：「医療情報システム」を表現するイラストの採用

⇒ 従来の抽象的なデザインから、具体的なイラストを用いたデザインに刷新

③帯デザインの追加：「病院の情報システムがこの一冊でしっかりわかる！」

⇒ キャッチコピーと書籍の概略を記載した帯デザインを追加

より多くの方の目を引き付け、本書に興味を持っていただける一助になることを願っております。

3.書籍の拡販検討

前版を超える販売数を目標に、現在も検討会を継続して開催しています。2023年に開催される学会、展示会、教育コースでは書籍のチラシを中心としたPR活動と合わせて、適宜優待価格のキャンペーンも実施していく計画です。今年度はさらに、「電子書籍配信サービス」で、本書籍をコンテンツ化する検討を進めております。教育機関を中心とした施設での電子図書館/電子教科書サービスで、より多くの方が本書籍をご活用いただけることを期待しています。

《'23'書籍PRイベント》

6月	医療情報学会春季大会	6/29-7/1
7月	モダンホスピタルショウ JAHIS入門コース1回 日本医療情報学会看護学術大会	7/12-14 7/19-21 7/22-23
9月	JAHIS介護入門 日薬展示 和歌山	9/1 9/17-18
11月	医療情報学会秋季大会 神戸 JAHIS入門コース2回	11/22-25 11/8-10

《医療情報システム入門2023のチラシ》



4.おわりに

JAHIS書籍「医療情報システム入門」は、JAHIS会員企業で第一線を担う専門の方が解説した、他に類を見ない入門書になります。医療情報システムに新しく携わる方が周りにおられましたら、お薦めいただけると幸いです。事業推進部は今後も本書をさらに多くの皆さまにご活用いただけるよう、継続した改定版の出版および積極的なプロモーション活動に努めてまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

表彰受賞者の紹介

2022年度にJAHISの委員会あるいはプロジェクト等において、以下の方々が受賞されました。

奨励賞 医事コンピュータ部会 令和6年度診療報酬改定に向けた厚生労働省への 意見具申及びJAHIS教育事業への貢献	医科システム委員会 電子点 数表分科会リーダー (富士通Japan(株)) いしかわ こうじ 石川 幸司	
--	---	---

受賞理由：

1. 厚生労働省より診療報酬改定の都度、次回改定に向けた要望の募集が関係機関に対して行われる。診療報酬点数表の関連告示・通知、レセプトの記載要領等に関する課題の整理、要望の取り纏めに際し中心的な役割を担い、厚生労働省に対し意見具申を行った。
特に令和4年度に於いては診療報酬改定DXに関する世の中の動向を意識した上で令和2年度までとは異なる観点を取り込み、意見の幅出しに取り組んだ。また、年度末に向けて、オンライン資格確認の導入の原則義務付け、オンライン資格確認の導入・普及に関する加算の特例措置、新型コロナウイルスの5類への移行、返戻再請求オンライン化義務化、電子処方箋の導入等、重量級の対応を抱えた中での作業となり、会員各社のJAHIS活動に対する動作が鈍くなりがちなかでも、自社作業とJAHIS作業という二刀流を見事に成し遂げるだけでなく、先頭に立って会員を鼓舞し、意見具申まで無事に至らしめた。
2. これまで積み重ねてきた自らの業務経験を元に、受講対象の多くを占める会員各社の若手社員の育成に役立てることをイメージした講義を立案し、シナリオ作成すると共に、解り易さを意識した丁寧なテキスト編集を行い、JAHISの教育事業に貢献する活動を行っている。なお、受講者アンケートからも担当の単元については高評価を得ており、活動に対する十分な結果を出していることで、講師としての質の高さも証明できている。

奨励賞 医療システム部会 初の専門委員長として、 献身的な委員会運営に貢献	臨床検査システム専門委員会 専門委員長 (アイテック阪急阪神(株)) うつ ぼ あきのり 打保 昭典	
--	---	---

受賞理由：

1. 2021年度末前専門委員長が突然退任したことに伴い、後任の専門委員長をアイテック阪急阪神(株)に打診したところ、打保氏を推薦いただき、2022年4月に専門委員長に就任いただいた。同氏はJAHIS未経験にも関わらず、JAHIS内外の関係者との調整を積極的に行い、専門委員会の献身的な

運営、業務継続性に多大なる貢献をいただいた。また、IHE-J主催の会議への参加などの活動を通して、早期キャッチアップも行っていただいた。

2. 開催・運営に尽力いただいた病理・臨床細胞部門システム専門委員会との合同勉強会『医師の働き方改革～タスク・シフト/シェア』では、参加者159名（会員会社:41社、非会員:19団体（うち医療機関10施設））と、臨床検査システム専門委員会の枠を超えた成果が得られた。

打保昭典さんのコメント：

検査システム委員会臨床検査システム専門委員会にて、専門委員長を務めさせていただいております打保です。この度は、第13期定時社員総会におきまして表彰していただき、誠にありがとうございます。専門委員長へは2022年度から着任しました。下名はこれまでJAHIS活動はしておらず、専門委員長着任と同時にJAHIS活動開始となりました。

その背景の中、今回奨励賞をいただきましたのは、もちろん専門委員会の皆様、事務局の皆様のご支援合っての賜物と大変感謝しております。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。ここからは臨床検査システム専門委員会の活動内容をご紹介します。

「JAHIS標準作成・普及と維持管理」「コード類標準化活動・検査データ共用化、二次利用に向けた推進活動」「臨床検査システムの発展・成長に向けた勉強会の開催」「各学会・団体への参加交流による普及推進活動」の4本柱で活動を行っております。

今年度より2年目の専門委員長となりますが、引き続き皆様のご支援をいただきながら尽力して参ります。

何卒宜しくお願いいたします。

奨励賞 医療システム部会	物流システム専門委員会 委員 (株ノーザ) ねごろ ひであき 根来 秀明 
部門システム類型化作業の推進 他	

受賞理由：

1. 部門システム委員会にて、自己の業務知識・知見を活かし、「部門システム類型化」作業を推進し、自らドキュメントの多くを作成し、活発に意見を発信することで、2022年度の完成に大きく貢献した。
2. 2021年7月より部門システム委員会に参加し、教育事業における2022年度版テキストの改版についても積極的に発言・資料作成を行い委員会の活性化に貢献している。

根来秀明さんのコメント：

医療システム部会 部門システム委員会で活動しております(株)ノーザの根来です。この度は2023年度総会において奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。

今回は部門システム委員会での活動及び対外活動として令和4年度の厚生労働行政推進調査事業「透

析情報の標準規格開発並びに透析診療施設間の連携を支援する標準化に関する研究」(以下、透析情報標準開発技術仕様WG)に部門システム委員会の代表として参加いたしました。部門システム委員会では微力ながら部門システムの課題抽出と解決に対する検討を行ってまいりました。透析情報標準開発技術仕様WGでは令和5年度も引き続き検討を進めており、HL7FHIRを用いた透析患者様の情報共有の標準化を進めている段階です。最終目標としては大規模災害時などの透析治療をより迅速にかつ正確に避難先の施設で実施出来る仕組みを構築出来るよう医療データ活用基盤整備機構及び日本医療機器テクノロジー協会と共に標準化を進めてまいります。

保健医療福祉情報システム工業会を通じて日本の医療に貢献出来ることをとても嬉しく思っております。まだまだ力不足な部分は否めませんが引き続き皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

奨励賞 医療システム部会	物流システム専門委員会 委員 (オリンパスメディカルシステムズ(株)) うえの よしひろ 上野 善裕	
医療材料EDI実践ガイド（仮称）の作成 他		

受賞理由：

1. 物流システム専門委員会にて、自己の業務知識・知見を活かし、「医療材料EDI実践ガイド（仮称）」の作成を提案し、自らドキュメントの多くを作成し、活発に意見を発信することで、専門委員会をリードしている。
2. 2021年1月より物流システム専門委員会に参加し、「16-102 HIS向け医療材料マスタの提供ガイドVer.1.1」の改定に向けた準備作業（2023年度作業項目提案予定）や、教育事業における2022年度版テキストの改版についても積極的に発言・資料作成を行い委員会の活性化に貢献している。

上野善裕さんのコメント：

医療システム部会 物流システム専門委員会のオリンパスメディカルシステムズ(株)上野です。このたびは、第13期定時社員総会で表彰いただき誠にありがとうございました。

今回表彰いただきました、物流システム専門委員会では現在、2つのガイド策定を進めています。

「HIS向け医療材料マスターの提供ガイド」の改定に向けた準備作業におきましては、既にVer.1.1が策定済です。今回の改定では、最新の標準内容など、現状に則した状況に合わせた修正を行い、医療機関内における標準コードの利活用を更に促進する事を目的としています。

そして、「医療材料EDI実装ガイド（仮称）」の作成におきましては、医療機関と医療材料を取り扱う業者間における電子商取引（EDI）において、受発注などに関わる各種情報システムに取り込む際の要求事項と実装方法を定めていきます。

このガイドは、医療機関による標準コード（GS1標準バーコードなど）の利活用の推進から、医療安全や業務改善などへの寄与を期待するものとなります。

今後も引き続き、皆様のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

奨励賞 総務会	女性活躍タスクフォース 委員 (株)ソフトウェア・サービス やまもと みちこ 山本 美智子 
女性活躍セミナー 新規広報活動の提案・実施	

受賞理由：

1. 女性活躍セミナーにおいて、案内・募集用に専用チラシを提案した（単独企画のチラシJAHISでは初）。さらに対象者である女性会員と、その上長である管理職/教育担当者では訴求ポイントが異なることに着目し、二種類のチラシ作成を発案した。
 - ・女性会員向け：華やかなデザインで、参加によって得られる知識や交流会の意義を訴求
 - ・上長向け：女性活躍のメリットを訴求。参加申請の資料に使用できるデザインとする
上長推薦の参加者が72%、JAHIS企画初参加も70%を超え、訴求の効果が表れた。
2. セミナーのグループ交流会においては、参加者の自由なディスカッションに積極的に加わり、参加者からの日頃の悩みや質問に真剣に応え、JAHISでの活動の楽しさや意義についてわかりやすく説明し、参加者のJAHISへの参加意欲の醸成に大いに貢献した。

山本美智子さんのコメント：

この度は奨励賞にご選出いただき、誠にありがとうございます。賞選考に関わった皆様に厚く御礼申し上げます。

女性活躍では講演・セミナーや会員同士の交流会などを中心とした企画・活動を行っております。2022年度は「ワンランクアップ！医療現場での仕事術」をテーマとしたセミナーを3回開催しました。募集の際は参加者自身に興味・関心を持っていただくとともに、その上司にも働きかけるよう工夫を凝らし、多数の皆様にご参加いただきました。セミナーでは女性を取り巻く労働環境とスキルの活用について多くの具体例を交えてご講演いただき、交流会はWEB会議形式に伴う意思疎通不足を危惧しておりましたが予想を反して活発な意見交換をされており、非常に有意義な会となりました。

このような活動を通じて私自身、様々な刺激を受け多くの学びを得ることができました。またJAHIS事務局の方々のご協力のもと、女性活躍のメンバーにも恵まれ大変感謝しております。

近年益々女性活躍やDEIBに注目されるなか、今後も女性活躍に寄与できるよう活動を続けてまいりますので、引き続きご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

功績賞 医事コンピュータ部会	調剤システム委員会 調剤標準化分科会 リーダ (三菱電機ITソリューションズ(株)) もり や かずあき 守屋 和昭 
院外処方箋2次元シンボル記録条件規約 Ver.1.8の制定	

受賞理由：

- 2022年10月後期高齢者負担割合見直し、2023年1月電子処方箋本格運用開始に向けて、分科会リーダーとして院外処方箋2次元シンボル記録条件規約の改版取り纏めの中心的存在として尽力され、2022年8月に規約を公表した。
- 本規約は、医療資源の有効活用、保健医療福祉サービスの連携・向上を目指す医療情報標準化とデータ交換円滑化に貢献されているものであり、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、会員ベンダーが効率的に制度改定対応できる環境作りにも十分に貢献するものとなっている。

功績賞(連名) 医事コンピュータ部会	歯科システム委員会 副委員長 (株アキラックス) もりの くに お 森野 國男  副委員長 (株ノーザ) さとう たかあき 佐藤 孝昭 
歯科レセプト版下作成販売事業への貢献	

受賞理由：

令和4年度診療報酬改定から「歯科用貴金属価格の随時改定」が、年4回の実施となった事で、3ヶ月毎に「手書きレセプト用紙版下」の【改版作業】が必要になったが、改定の都度、改版作業と提供案内作業を遅れる事無く実施し、購入希望先（歯科医師会、関連企業、レセコンベンダー）へ販売を行う事で、統一版手書きレセプト様式の提供へ継続して協力し、JAHIS事業にも貢献した。

令和4年度実績 4月:66件 7月:22件 10月:27件 1月:21件 計136件

森野國男さんのコメント：

歯科システム委員会で歯科レセプト版下作成販売を担当しております森野です。この度は2023年度総会におきまして功績書で表彰をいただき、誠にありがとうございます。

今回の表彰は、「歯科レセプト版下作成販売事業への貢献」でした。元々歯科レセプトは電子化される前、保険種別により、各県毎に8～10種類存在していた状態から2種類に統一された際に、標準化を図る目的で歯科システム委員会で作成を担当し、各歯科ベンダー及び各都道府県歯科医師会へ標準

見本を示すこととしたものです。以来、歯科では診療報酬改定毎にJAHISから歯科レセプト版下をフィルム及び印刷データで提供する事業が定着しています。近年は2年毎の定時改定のみならず3ヶ月毎の歯科貴金属材料の随時改定の度に本事業の作業を行っています。レセプトの完全電子化に向かい、今後この事業の在り方も検討が求められていますが、日本歯科医師会等関係団体との調整を含め引き続きこの事業を歯科システム委員会が担当させていただきます。

今後とも本事業へのご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

佐藤孝昭さんのコメント：

歯科システム委員会の副委員長を務めさせていただいております佐藤です。この度は2023年度総会におきまして表彰していただき、誠にありがとうございます。関係者の皆様に感謝申し上げます。

版下販売分科会では、診療報酬明細書（歯科入院外）の版下の作成・案内・販売を行っています。歯科の診療報酬明細書の様式は網の目のように細かく、規定されている場所に点数と回数を記載する必要があるため、あらかじめ点数を記入した販売を作成しております。

令和4年4月の診療報酬改定までは3ヶ月毎に金銀パラジウム合金を含む歯科用貴金属材料価格の見直しが行われ、変動幅が当時の告示価格の±5%または±15%を超えた場合に点数の変更を行ってきました。

しかし、歯科用貴金属は市場価格の変動の影響を受けやすく価格の乱高下が起こったことを受け、令和4年4月診療報酬改定からは、3ヶ月ごとに告示価格から変動幅にかかわらず改定が行われることになりました。

版下販売分科会では、令和4年4月以降、7月、10月、令和5年1月、4月に改定後の点数に更新した版下を作成・案内を遅れることなく実施してまいりました。

今後も3ヶ月毎に行われる歯科用貴金属材料の改定内容を反映した版下を速やかに提供するように努めてまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

功績賞 医事コンピュータ部会	歯科システム委員会 改定分科会 リーダ (株)モリタ た が い ひろゆき 多 貝 浩 行	
歯科傷病名の標準化への貢献		

受賞理由：

1. 一般財団法人 医療情報システム開発センター（MEDIS-DC）が開催している「歯科分野の標準化委員会」へ参加。電子レセプト請求における未コード化傷病名削減の為、歯科傷病名の新設及び更新について、JAHISの委員の立場から、利用事例を元に更新案を提出。その成果物として、2022年12月22日、標準歯科病名マスタとして更新版がMEDIS-DCから公開された。
2. 傷病名コードの統一の推進についての事務連絡（2022（令和4）年3月25日 厚生労働省保険局医療課）が発出されていることから、傷病名の標準化推進が求められている中、電子レセプト請求の実状に応じた変更を行いつつ、未コード化歯科傷病名の利用の大幅な削減に協力し、歯科分野、特に歯科傷病名の標準化推進に大きく貢献することもできた。

3. なお、19年間の永きに亘り、歯科システム委員会の副委員長（2022年4月交代）として、JAHIS活動に従事され、歯科システム委員会の活動全般にも大きく貢献されました。

多貝浩行さんのコメント：

医事コンピュータ部会歯科システム委員会で、2021年度まで副委員長を務めさせていただいた多貝です。この度は、第13期定時社員総会において功績賞を授与いただきまして、誠にありがとうございます。

2004年より歯科システム委員会で副委員長を務めると共に、その委員会から派遣の形で、一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS-DC）の歯科分野の標準化委員会の委員を昨年度まで務め、レセコンベンダーの立場から標準化の活動に参画させていただきました。

当時、歯科のレセプト電算処理（以下「レセ電」）は具体化が始まったばかりでしたが、その後この委員会で選定された標準歯科病名マスターは、レセ電の傷病名マスターと対応付けられ、2011年には厚生労働省標準規格となりました。JAHISから提示した未コード化傷病名についても検討のうえコード化されて、未コード化傷病名の削減に繋がり、今日もメンテが続けられています。

また、この委員会で策定された標準歯式コード仕様は、レセ電の歯式マスターに採用され、2019年には厚生労働省標準規格にも採択されました。

私事ではありますが、所属会社をこの6月で引退するので、今回の表彰はJAHISでの活動の最後のよい思い出となりました。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

功績賞 医療システム部会	電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員 (シスメックスCNA株) こんどう めぐみ 近藤 恵美 
「22-103 JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（病理編）Ver.1.0」の制定	

受賞理由：

- 「22-103 JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（病理編）Ver1.0」の制定にあたり、作成に携わる会員各社との意見調整や、制定にあたりポイントとなる日本病理学会との連携や調整等において、中心的な役割を担って活動を牽引した。
- 特に、病理学会とJAHIS側意見の調整役として、学会からの修正意見や要望を取りまとめ、専門委員会へのフィードバックを行っていただいた。ガイドの制定に果たした貢献は非常に大きい。
- ガイド制定後、病理学会に対しての啓発活動を積極的に推進した。

近藤恵美さんのコメント：

電子カルテ委員会患者安全ガイド専門委員会の近藤と申します。この度、第13期定時社員総会で表彰いただきました。本当にありがとうございます。今回表彰の対象となりました「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（病理編）Ver.1.0」をまとめるにあたっては、患者安全ガイド専門委員会の皆様に多大なご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（病理編）Ver.1.0」制定までの道のりは、山あり谷ありでした。一番苦勞したのは、関連学会との調整です。JAHIS内のレビュー後に関連学会にレビューをお願いしたのですが、ありがたくも多くのご指摘をいただきました。問題は、いただいたご指摘の中にJAHIS内で出た指摘と相反する内容もあったことです。両者のバランスを取ってどう対応するかの検討にはかなり苦勞しましたし、時間もかかりました。なんとか制定にこぎつけた時は、感慨もひとしおでした。そして今回、表彰いただいたことで、苦勞が報われたと感じています。

今後も病理・臨床細胞分野におけるJAHIS標準、技術文書の開発、普及に邁進していきたいと存じます。引き続き、ご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

功績賞 医療システム部会	セキュリティ委員会 電子保存WG リーダ (日本電気㈱) こんどう まこと 近藤 誠	
22-007 JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインVer.4の制定		

受賞理由：

1. 「22-007 JAHIS保存が義務付けられた診療録等の電子保存ガイドラインVer.4」の制定において、WGリーダーとして中核的な役割を果たし、改定作業を完遂した。
2. 厚生労働省の医療情報システムの安全管理に関するガイドライン改定においてJAHISとしての構成員コメント、パブリックコメントの策定において取りまとめ作業を実施し、適切なタイミングでコメントの提出を行うことが出来た。
3. 事業推進部と連携し、新人教育や標準化セミナー等において電子保存に関するコンテンツ作成ならびにとりまとめを実施し、会員への啓発活動に貢献した。

功績賞 標準化推進部会	安全性・品質企画委員会 委員長 (日本電気㈱) おかだ しんいち 岡田 真一	
「サイバーセキュリティに関するヘルスソフトウェアのJIS規格開発への貢献」 JIS T 81001-1の規格開発		

受賞理由：

1. ISO TC215 JWG7 国際エキスパートとして国際標準規格 ISO 81001-1 のJIS規格化において原案作成プロジェクトグループ（PG）の主査として参画した。このJIS規格は2022年10月25日に公布された。
2. 医療分野のサイバーセキュリティに関する国際標準規格のJIS化は、令和5年度（2023年度）の薬機法の基本要件規準の改正の一環である。この中でJIS T 81001-1 は、ヘルスソフトウェアの概念・用語に関する規格であり、今後のヘルスソフトウェアに関する規格の引用元となるものである。
3. ヘルスソフトウェアは、規制対象である医療機器ソフトウェアを含む健康領域のソフトウェアを対象としたJIS規格であり、JAHIS会員の製品群との関係が深い。

岡田真一さんのコメント：

安全性・品質企画委員会の委員長を務めさせていただいております、岡田です。この度は第13期定時社員総会におきまして表彰していただき、誠にありがとうございます。

世界中に広がるサイバーセキュリティの脅威に対して、国際的なガイダンスが制定され、日本もそのガイダンスに準拠した施策を開始しました。この流れの中、ヘルスソフトウェアに関する国際標準規格をJIS化するプロジェクトが始動し、JAHISは、ヘルスソフトウェアの概念や用語を定義したJIS T 81001-1とヘルスソフトウェアのライフサイクルにおけるセキュリティ要求事項を規定したJIS T 81001-5-1という2つのJIS規格開発に参画しました。

このJIS規格の「ヘルスソフトウェア」は規制対象の医療機器ソフトウェアを含むものです。規制対象か否かに関わらず、人々の健康に被害を与えうるシステム・サービスに関しては、十分な配慮が必要です。この規格は、健康被害に影響を与えうるサイバーセキュリティを対象としたものです。

会誌70号に「ヘルスソフトウェアを対象とした国際標準規格のJIS制定について」と題して寄稿しております。こちらのほうもご一読いただき、ご関心を深めていただければ幸いです。

功績賞 標準化推進部会 「サイバーセキュリティに関するヘルスソフトウェアのJIS規格開発への貢献」 JIS T 81001-5-1の規格開発	安全性・品質企画委員会 副委員長 (富士通Japan(株)) かなみつ あき 金光 暁	
---	--	--

受賞理由：

1. ISO TC215 JWG7 国際エキスパートとして国際標準規格 IEC 81001-5-1 のJIS規格化において原案作成プロジェクトグループ (PG) の主査として参画した。このJIS規格は2023年2月27日に公布された。
2. 医療分野のサイバーセキュリティに関する国際標準規格のJIS化は、令和5年度（2023年度）の薬機法 基本要件規準の改正の一環である。この中で、JIS T 81001-5-1 は、ヘルスソフトウェアのライフサイクルにおけるセキュリティ要件を規定したものであり、原案であるIEC 81001-5-1は欧米でも医療機器ソフトウェアの規制に使用されている規格である。
3. ヘルスソフトウェアは規制対象である医療機器ソフトウェアを含む健康領域のソフトウェアを対象としたJIS規格であり、JAHIS会員の製品群との関係が深い。

金光暁さんのコメント：

この度は第13期定時社員総会にて表彰いただき、誠にありがとうございます。今回の表彰は、IEC 81001-5-1のJIS規格となるJIS T 81001-5-1（ヘルスソフトウェア及びヘルス IT システムの安全、有効性及びセキュリティー第5-1部：セキュリティー製品ライフサイクルにおけるアクティビティ）の制定につきまして、安全性・品質企画委員会から選出いただきました。この規格は、医療機器ソフトウェアのライフサイクルプロセスであるJIS T 2304の構造を反映して、セキュリティに関するアクティビティを規定したものであり、対象範囲もヘルスソフトウェアとなっています。令和5年2月25日に制定され、薬機法の基本要件基準第12条第3項において参照される規格となっており、医療機器

開発において必要な規格となっています。このような重要なJIS規格の制定に携わることができ、大変光栄に思います。今回、初めてJISの作業に関わることになり、不手際も多くございましたが、原案作成委員会及び原案作成PGの有識者の方々、日本規格協会の方々にご指導・ご協力いただきながら、予定通り発行することができました。この場を借りて御礼申し上げます。今後もヘルスソフトウェアの品質活動に少しでもお役に立てるよう精進してまいります。

功績賞	事業推進部	
日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示出展への貢献		日薬展示委員会 副委員長 (株)ユニケソフトウェアリサーチ かめだ ひろふみ 亀田 裕文

受賞理由：

- 第55回日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示（宮城県）において、COVID-19禍の中、2年ぶりのハイブリッド方式での開催となった事に対し、JAHISとして出展社数20社（スタンダードブース：48小間、フリーブース：300㎡）を確保した。会場参加者、オンライン参加者双方の動員に大きく貢献し、JAHISのプレゼンスを高めた。
- 同氏は約30年の長きにわたり日薬大会併設IT機器展示の取り纏め役として活動されており、上記と並行して、「第56回大会併設IT機器展示（和歌山市）」、「第57回併設IT機器展示（さいたま市）」に向けて、和歌山県薬剤師会や埼玉県薬剤師会へアプローチを行い、来年度以降の委託継続の足掛かりを作った。

功績賞	事業推進部	
コロナ禍における展博事業推進		ホスピタルショウ委員会 委員長 (富士フイルムヘルスケアシステムズ(株)) さとう としなり 佐藤 利齊

受賞理由：

- COVID-19禍により、前年2021年に引き続きハイブリッド方式での開催となった。社会的には感染対策への意識が前年よりも下がりつつある中、万全な感染対策も含めた展示マニュアルを作成する等により会場参加者の安全確保に努め、JAHIS対応者の感染ゼロを実現した。
- JAHIS会員への積極的な展示の働きかけにより、会場参加者及びオンライン参加者の動員に大きく貢献し、JAHISのプレゼンスを高めた。

(参考)

- 会員出展数：2021年度 41社
2022年度 50社
- 出展手数料：2021年度 1,553,940円
2022年度 1,817,472円

功績賞(連名) 事業推進部	事業企画委員会 委員長 (キヤノンメディカルシステムズ(株)) きど すみこ 木戸 須美子	
書籍『医療情報システム入門』の 改訂・販売促進		
副委員長 (コニカミノルタ(株)) お がわ ゆうだい 小川 雄代	副委員長 (富士フイルム(株)) ひらぬま まさひで 平沼 雅英	

受賞理由：

1. 3年ぶりのJAHIS書籍「医療情報システム入門」の改訂（前版は2020年1月28日発刊）において、執筆者である各委員会の方々との調整、出版元である社会保険研究所との調整、親しみやすい表紙デザインの検討、出版に向けた最終チェックを行い、「医療情報システム入門2023」を2023年2月24日に発刊した。
2. 前版である「医療情報システム入門2020」は、積極的なプロモーション活動（学会・展示会でのPR、教育機関向けDM発送等）により、実売 4,093部 を達成した。（前々版は、2,607部）

木戸須美子さんのコメント：

事業推進部 事業企画委員会の委員長を務めております木戸です。この度は2023年定時社員総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。

今回の表彰は、書籍『医療情報システム入門』改訂・販売促進を表彰いただきました。これは『2020版』の販売実績、『2023版』出版に対するもので、執筆いただいた各委員会の皆様の努力と知識に支えられた書籍を、評価頂いたものと考えております。

書籍はシステム全体に関する基礎知識を網羅したものとなっており、行政・業界動向や技術の進展に合わせて、医療をとりまく環境の変化を反映させるため、定期的な改定を行っています。また近年は大学などの教育機関において教材として採用いただいておりますが、今後は電子書籍化を行い、その範囲と利便性をさらに広げていきたいと考えています。

書籍をはじめとし、今後もJAHIS会員サービスのさらなる向上を目指して活動してまいりますので、引き続きご支援、ご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

平沼雅英さんのコメント：

事業推進部 事業企画委員会における活動で功績賞をいただきました富士フイルムの平沼と申します。名誉ある賞をいただき、心から感謝申し上げます。

書籍『医療情報システム入門』は2008年に初版が発刊され、以降の改訂を経て、本年2月に最新版である『医療情報システム入門2023』を出版いたしました。初版の発刊から現在まで15年という歴史を持つ書籍の改訂版作成とプロモーションに携わることができ、大変光栄に感じております。

本書籍について、執筆に際してはJAHIS各部会 各委員会の皆様に加え、日本画像医療システム工業会（JIRA）の皆様のご協力をいただきました。また、出版に関しては社会保険研究所の皆様のご支援をいただき、改定および販売が実現しています。今回の受賞は、ご協力・ご支援をいただいた皆さまの代表として受賞いたしましたことを心からお礼申し上げます。

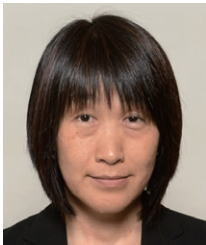
事業企画部は今後も『医療情報システム入門』をさらに多くの皆さまにご活用いただけるよう、継続した改定版の出版および積極的なプロモーション活動に努めてまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

小川雄代さんのコメント：

事業推進部 事業企画委員会の副委員長を務めておりますコニカミノルタの小川です。この度はJAHIS定時社員総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございました。今回の表彰は、事業企画委員会で取り組みました、JAHIS書籍「医療情報システム入門」の販売促進と 新刊の発行について評価をいただけたものになります。出版頂いております社会保険研究所の皆さま、各単元を執筆頂いた各委員会の皆さま、いつも活動を支えていただいている事務局の皆さまに この場を借りて深く御礼申し上げます。

書籍の発刊に向けては 22年3月より定期的に検討会を開催してきました。特に、表紙のデザインについては、より"わかりやすい"、"親しみやすい" デザインとするべく、「サブタイトル」「イラストの採用」「帯のデザイン」について検討しました。委員会の皆さまには、毎月の委員会で様々なご意見をいただき、とてもよい検討が行えたこと心から感謝申し上げます。

今年度も様々な場で 本書籍のプロモーションを行ってまいります。自分自身としても書籍のPR・委員会での活動を自社内でより広めていきたいと思っております。この度は表彰をいただき、本当にありがとうございました。

功績賞(連名)		総務会		女性活躍タスクフォース リーダー (キャンノンメディカルシステムズ株)			
女性活躍セミナー 企画・立案と実施				きど すみこ 木戸 須美子			
		委員 (日本電気株)		しおさき ひろこ 汐崎 弘子			
		委員 (日本事務器株)		つじ まさみ 辻 雅美			

受賞理由：

1. JAHISの各種活動において、女性会員がより多く参加するためにはどうすれば良いのか、その課題解決に向けた活動を2021年から継続的に行い、2022年度には、新たなタスクフォースを立ち上げ、3回の女性活躍セミナーを一連のテーマで開催した。外部講師の選任や講演テーマの選定など、毎

回女性会員の関心の高いコンテンツを考え、多くの参加者を得ることができた。

2. 特にグループ交流会の企画は、アンケート分析の結果からも、参加会員の普段の仕事上の悩みが共有されたと、参加者からも好評であった。また来年度も継続して欲しいとの声も多く聞かれた。
3. 医療情報に関わる女性の社外交流の場を提供し、スキルアップをサポートすることをJAHISの役割の1つと位置付け、2023年度の企画を進めている。

木戸須美子さんのコメント：

総務会・女性活躍タスクフォース リーダを務めております木戸です。この度は2023年度定時社員総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。

女性活躍タスクフォースは、“JAHIS活動に参画する女性会員の活躍を推進していく取り組み”を定着させるため、2021年度に開催したオンラインセミナー・交流会の企画メンバーを元に発足しました。2022年度は“ワンランクアップ！ 医療現場での仕事術～ユーザから頼られるパートナーを目指して～”をメインテーマに掲げ、3回シリーズで女性活躍セミナーを開催しました。参加いただいた皆様には、企業や職種の枠を超えて同じ課題を共有し、個々のノウハウをシェアする機会を提供できました。参加者アンケート結果からも企画が好評であったこと、次年度以降も継続を望まれていることが伺え、これからも女性の活躍やスキルアップをサポートする企画の提供を進めていきたいと考えています。

引き続き皆様からご支援、ご協力を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

汐崎弘子さんのコメント：

総務会・女性活躍タスクフォースの活動で、2023年度定時社員総会におきまして功績賞をいただきました。誠にありがとうございます。

本活動は、JAHIS活動への女性会員の参画機会向上をめざすということで、2021年8月に企画検討が開始となりましたが、最初は、どのような活動をおこなっていくのか、つかみどころのない状況からのスタートでした。2021年12月に講演＋グループ交流会の形で初のセミナーを開催することができ、講演自体も好評でしたが、講演後のグループ交流会が有意義・貴重な機会だったとのコメントを多数いただき、企業の枠を超えて、同じ情報分野で働く人との交流が想像以上に求められている事を感じました。

2022年度は女性活躍タスクフォースが立ち上がり、初回のアンケート結果も参考にして、3回シリーズのセミナーを企画・実施しました。多くの方に参加していただき、色々なご意見をいただきました。また、企画にあたって情報収集や関連セミナーに参加するなどして、企画する側としても新しいことを知る・考える機会が多かったと感じています。

今年度も継続して、セミナーを開催する予定です。医療情報に関わる女性の交流の場を提供・サポートしていきたいと考えています。企画やセミナー開催等、是非ご協力いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

辻雅美さんのコメント：

総務会・女性活躍タスクフォースでお世話になっております辻です。

このたびは、2023年度定時社員総会にて表彰いただき、誠にありがとうございます。

また、一緒に活動してるタスクフォースメンバー、活動にご協力いただいている皆様にも、感謝申し上げます。

女性活躍TFは、2021年に「JAHIS活動に参画する女性会員の人数を増やすこと」を目的に、企画段階からスタートしました。

2021年度は、女性の声を聞くことから始め、交流会では「会社に女性が少なく、ロールモデルがない」などの声がありました。

2022年度は、どのようなテーマが女性の活躍に繋がるか、女性のキャリアに繋がるかを考え、医療SEが1番関わりのある病院の情報システムのお話や医療業界での女性のキャリアの経験談など、女性が興味を持ちそうなセミナーと交流会を3回実施しました。受講者の方からは企業や職種を超えた意見交換は、とても有意義であり、参加して大変参考になったなどの感想をいただきました。私自身も、大きな学びや励みになりました。

提供するセミナーが、女性がJAHISに参加する一歩になったと考えております。

引き続き、JAHISに所属する女性の活躍の推進ならびにその活動を通して、JAHISの発展の一助になれるよう、努めてまいります。

引き続き、ご支援、ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

功績賞（グループ）		戦略企画部	
電子処方箋の運用開始			
Action2対応WG リーダー (日本電気(株)) あらかき よしひと 新垣 淑仁	医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 (三菱電機(株)) みよはら ひでゆき 茗原 秀幸	医療システム部会 HPKI電子署名規格作成WG リーダ (株)NTTデータ) あり ま くにはる 有馬 一閣	医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 (日本アイ・ビー・エム(株)) き むら まさひこ 木村 雅彦
医療システム部会 電子カルテ委員会 副委員長 (富士通Japan(株)) おお た さとし 太田 聡司	医療システム部会 電子カルテ委員会 委員 (富士通Japan(株)) くさ の さとし 草野 聡	医療システム部会 電子カルテ委員会 委員 (PHC(株)) ご とう たかのり 後藤 孝周	医事コンピュータ部会 副部長 (日本電気(株)) しば た まなぶ 柴田 学
医事コンピュータ部会 医科システム委員会 委員長 (株)NTTデータ) し みず ちから 清水 力	医事コンピュータ部会 電子レセプト委員会 委員長 (日本電気(株)) にしぐち たえ こ 西口 妙子	医事コンピュータ部会 電子レセプト委員会 副委員長 (ウィーメックス(株)) みやわき しん じ 宮脇 伸次	医事コンピュータ部会 マスタ委員会 委員長 (キャノンメディカルシステムズ(株)) に かいどう まこと 二階堂 誠
医事コンピュータ部会 マスタ委員会 副委員長 (日本事務器(株)) ご とう ともたか 後藤 知孝	医事コンピュータ部会 マスタ委員会 副委員長 (富士フイルムヘルスケアシステムズ(株)) なかじま み わ 中嶋 美和	医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 委員長 (三菱電機ITソリューションズ(株)) みやじま たけし 宮島 毅	医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 副委員長 (富士フイルムヘルスケアシステムズ(株)) なか こ とよあき 中湖 豊明
医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 副委員長 (株)EMシステムズ) さ とう か ねえ 佐藤 夏苗	医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 副委員長 (ウィーメックス(株)) い で しん じ 井出 真司	医事コンピュータ部会 調剤標準化分科会 リーダ (三菱電機ITソリューションズ(株)) もり や かずあき 守屋 和昭	医事コンピュータ部会 調剤標準化分科会 サブリーダー (東日本メディコム(株)) の もと ただし 野本 禎
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 委員長 (株)ミック) にし だ きよし 西田 潔	医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長 (株)ノーザ) さ とう たかあき 佐藤 孝昭		

受賞理由：

- 電子処方箋の運用開始に向けて技術仕様や運用フロー、セキュリティ等について、厚生労働省 医薬・生活衛生局や社会保険診療報酬支払基金等の関係機関との議論を継続して行ってきた。
 Action2対応ワーキンググループ 2022年度 開催回数 計19回
 厚生労働省 医薬・生活衛生局が主催する電子処方箋作業班及び電子処方箋推進会議に班員・構成員として参画
 2022年度 電子処方箋作業班 3回（開催日：7/7、10/12、2/21～28（書面確認））
 電子処方箋推進会議 3回（開催日：9/2、10/28、3/10）
- JAHISとして提言活動を実施。その結果、2023年1月26日の運用開始に貢献。システム・運用面で、大きなトラブルなく概ね順調に稼働中と厚生労働省が発表している。（第12回健康・医療・介護情報利活用検討会（2023/3/29））

《主な提言内容》

電子処方箋で使用する医薬品コードにレセ電コードに加え、YJコードを採用すること
電子処方箋のデータ形式について、既に実運用で利用されている2次元シンボル記録等の活用を踏まえた実現可能な手段とすること

HPKI署名の仕組みについて、電子処方箋CDA記述仕様と同じ形式を採用すること

- 3 電子処方箋はデータヘルス集中改革プランのアクションプランの1つに位置づけられており、電子処方箋の次のステップでは、連携できる医療情報のさらなる拡大を目指している。

将来的には全国医療情報プラットフォームの話につながっている非常に重要な実現テーマであり、JAHISのプレゼンスを大きく発揮できた。

新垣 淑仁さんのコメント：

戦略企画部 Action2対応WGでお世話になっております日本電気株の新垣です。この度は2023年JAHIS定時社員総会におきまして、2022年度の「功績賞-グループ表彰」をいただき、誠にありがとうございました。また、当WGメンバのご協力いただいた皆様にこの場をお借りして、御礼申し上げます。

Action2対応WGは、電子処方箋の運用開始(2023/1/26)に向けて厚生労働省 医薬・生活衛生局や社会保険診療報酬支払基金等の関係機関と、技術仕様や運用フロー、セキュリティ等について、継続的に議論を行って参りました。私自身は、本WGに2021年から参加し2022年にWGのリーダに就任することとなりましたが、電子カルテ・医事・調剤・セキュリティ各分野の知見をもったWGのメンバにリードしていただく形でこの1年間を務めさせていただきました。

本活動は今後も、電子処方箋の利用を促進していくため、そして、電子処方箋の更なる機能拡充について検討をおこなうにあたり、これからも皆様のご協力とともに電子処方箋導入の推進に向けて活動して参ります。JAHISと医療業界に少しでも貢献できれば幸いです。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

功績賞（グループ） 医事コンピュータ部会

一般財団法人 医療保険業務研究協会 2022年度調査研究事業への参画

医事コンピュータ部会 副部長 (日本電気株) しば た まなぶ 柴田 学	医科システム委員会 委員長 (株)NTTデータ) し みず ちから 清水 力	マスタ委員会 副委員長 (株)NTTデータ) ふるかわ なりみち 古川 成道	マスタ委員会 委員長 (キヤノンメディカルシステムズ株) に かいどう まこと 二階堂 誠
電子レセプト委員会 委員 (株)社会保険研究所) みず の たつおみ 水野 竜臣	電子レセプト委員会 委員 (株)社会保険研究所) たかはし こう たろう 高橋 宏太郎	電子レセプト委員会 委員 (株)社会保険研究所) い ぐち しょう た 井口 翔太	電子レセプト委員会 委員長 (日本電気株) にしぐち たえ こ 西口 妙子
電子レセプト委員会 副委員長 (富士通Japan株) にしむら かつひこ 西村 勝彦	医科システム委員会 副委員長 (富士通Japan株) いしかわ こう じ 石川 幸司	電子レセプト委員会 副委員長 (ウィーメックス株) みやわき しん じ 宮脇 伸次	

受賞理由：

- 一般財団法人 医療保険業務研究協会から、2022年度調査研究事業を受託し、調査研究論文（全68頁）を完成、3月27日に納品を完了した。
論文タイトル
「診療報酬請求情報システムから見た2022年4月診療報酬改定およびオンライン資格確認等システム等における対応の特徴点の評価および対応案検討過程の考察」
- 調査研究論文は、2023年度に一般財団法人 医療保険業務研究協会ホームページ上で公開される予定。広く公開されることで、JAHISのプレゼンス向上が期待できる。
- JAHIS医科系委員会幹部メンバの育成を目的に、若手副委員長メンバにも参加してもらい、丁寧に検討を進めた。

功績賞（グループ） 標準化推進部会

「コロナ禍におけるJAHIS国際活動広報への貢献」
国際標準化総覧2022年度版の発行

国際標準化委員会 委員長 (日本電気株) おかだ しんいち 岡田 真一	国際標準化委員会 副委員長 (日本アイ・ピー・エム株) いで だいすけ 井出 大介	国際標準化委員会 委員 (亀田医療情報株) つかだ さとし 塚田 智	国際標準化委員会 委員 (日本光電工業株) まつこと こういちろう 松元 恒一郎
国際標準化委員会 委員 (三菱電機株) みよはら ひでゆき 茗原 秀幸	国際標準化委員会 委員 (株)リコー やちだ ますよし 谷内田 益義	国際標準化委員会 委員 (日本光電工業株) ひらい まさあき 平井 正明	国際標準化委員会 委員 (富士通Japan株) かなみつ あき 金光 暁
医療システム部会 相互運用性委員会 委員 (日本電気株) だんばら かずゆき 檀原 一之	国際標準化委員会 委員 (富士フイルム株) むらた まさお 村田 公生	医療システム部会 相互運用性委員会 委員 (キヤノンメディカルシステムズ株) しおかわ やすなり 塩川 康成	医療システム部会 検査システム委員会 委員 (オリンパスメディカルシステムズ株) おおもり しんいち 大森 真一
医療システム部会 検査システム委員会 委員 (オリンパスメディカルシステムズ株) おさき たかし 尾崎 孝史	医療システム部会 検査システム委員会 副委員長 (シスメックスCNA株) こんどう めぐみ 近藤 恵美	医療システム部会 検査システム委員会 委員 (株)日立ハイテク たかはし けんいち 高橋 賢一	

受賞理由：

- 2020年からのコロナ禍により、国際会議の中止や延期、海外渡航の制限など大きな制約を受けた中、時差やリモート接続などの困難な環境下で、国際エキスパートとして活動するとともに、得られた情報を集約した「国際標準化総覧」を発行した。
 - 国際標準化総覧は、JAHIS国際エキスパートの活動をJAHIS会員に伝えることを目的に、国際エキスパート本人が執筆したものを編纂しwebで公開している。
- 初版発行は2009年。今回は2019年に発行した前の版から4年ぶりの更新となる。

功績賞（グループ） 標準化推進部会

標準類全体図オーバービューチャート改版

普及推進委員会 委員長 (富士通Japan(株)) いわつ せいじ 岩津 聖二	普及推進委員会 副委員長 (日本電気(株)) ふくま こうじ 福間 衡治	普及推進委員会 委員 (日本電気(株)) とりい みつる 鳥井 満	普及推進委員会 委員 (日本電気(株)) いいつか なおゆき 飯塚 直幸
普及推進委員会 委員 (富士通Japan(株)) たなか ひろあき 田中 宏明	普及推進委員会 委員 (メディカルデータベース(株)) みやむら のぶてる 宮村 信輝	普及推進委員会 委員 (キヤノンメディカルシステムズ(株)) たなか としお 田中 利夫	医療システム部会 相互運用性委員会 委員 (キヤノンメディカルシステムズ(株)) しおかわ やすなり 塩川 康成

受賞理由：

1. 2017年に作成したオーバービューチャートを5年ぶりに大幅改修。従来のオーバービューチャートは、院内の医療情報システムの連携をメイン対象範囲としていたが、今回は2022年3月に厚生労働省標準となった「HL7 FHIR」を中心に施設間の連携をわかりやすく表現した。
2. 改版に伴い、前版発行後に制定された「厚生労働省標準」と「JAHIS標準類」のすべてを掲載することとし、サイト上でリンクするURLの総点検を実施。リンク先の最新化および、見やすくわかりやすい配置・ユニバーサルデザインに変更した。
3. 3月に改版を完了しJAHIS標準類の更なる啓発に邁進した。

運営状況報告

2023年6月30日現在の会員数状況は、下表のとおりです。総計で378社となりました。

■ 2023年度会員数状況（2023年6月30日現在）

会員種別	A	B	C	D	E	F	合計
2022年12月31日時点	7	4	11	22	129	210	383
期中の新規会員	1	0	0	1	3	3	8
期中の退会	0	0	0	-3	-1	-9	-13
期中の会員種別の変更	-1	1	1	1	-1	-1	0
2023年6月30日現在	7	5	12	21	130	203	378

理事会

2022年度第2回定例理事会、2023年度第1回定例理事会及び第104回～第107回の書面理事会が開催されました。

それぞれの審議結果は次のとおりです。

2022年度第2回定例理事会

開催日時：2023年2月17日（金）10：00～11：03

開催場所：JAHIS会議室およびオンライン

出席：理事10名、監事2名

議事：

(1) 決議事項

第1号議案：(株)日立製作所 会員種別変更の件

第2号議案：PHC(株) 会員種別変更の件

第3号議案：ウィーメックス(株) 入会の件

(2) 報告事項

報告1：2022年度 第1・2・3四半期の活動状況報告

報告2：2023年度 事業計画（案）

2023年度第1回定例理事会

開催日時：2023年5月12日（金）10：00～10：45

開催場所：JAHIS会議室およびオンライン

出席：理事9名、監事2名

議事：

(1) 決議事項

第1号議案：2022年度 事業報告の件

第2号議案：2022年度 計算書類承認及び監事監査結果報告の件

第3号議案：2023年度 事業計画承認の件

第4号議案：2023年度 収支予算承認の件

第5号議案：役員選任・補欠役員選任の件

第6号議案：定時社員総会招集の件

第7号議案：副会長選定の件

第104回書面理事会（2023年1月17日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

(株) オークソリューションズ E会員 紹介：日本医師会ORCA管理機構(株)

第105回書面理事会（2023年2月14日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

オムロン(株) F会員 紹介：オムロンヘルスケア(株)

第106回書面理事会（2023年3月16日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

(株)アルム D会員 紹介：富士通Japan(株)

(株)TMJ E会員 紹介：セコム(株)

(株)KDDIエボルバ F会員 紹介：(株)ワイズマン

第107回書面理事会（2023年5月17日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

(株)シード・プランニング E会員 紹介：(株)電算dsn

(株)ストランザ F会員 紹介：(株)ミネルヴァ

運営会議状況報告

2022年度 第10回運営会議議事録

＜日時＞：2023年1月24日（火）15:02～17:44

＜場所＞：WEB会議

1. 2022年度第2回定例理事会について

2022年度第2回定例理事会報告資料を承認した。

2. 対外活動申請

- ・国際標準化団体（DICOM WG13）への派遣者変更の件

国際標準化団体のDICOM WG13（内視鏡）に参画していた検査システム委員会委員 渡邊克也氏の退職に伴う後任者を同委員会DICOM WGから推薦された尾崎孝史氏とすることについて、医療システム部会および標準化推進部会にて承認された事が報告され、承認された。

また、国際標準化団体への派遣者リストの運用方法案が説明され、承認された。

3. 会員意識調査2023実施協力依頼

本調査への実施協力依頼（各部会の委員会等での周知および回答の呼びかけ）について説明され、実施を進めていくことについて確認した。

2022年度 第11回運営会議議事録

＜日時＞：2023年2月21日（火）15:00～17:12

＜場所＞：WEB会議

1. 電子投票結果

- ・内閣府 規制改革推進会議 医療・介護・感染症対策ワーキング・グループへの委員派遣

2/9電子投票において、医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏の委員派遣が承認されたことが報告された。

- ・厚生労働省「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策セミナー」での登壇の件

2/13電子投票において、戦略企画部 部長 並川寛和氏の登壇対応が承認されたことが報告された。

- ・2022年度第2回定例理事会議案追加の件

2/14電子投票において、2022年度第2回定例理事会への議案追加が承認されたことが報告された。

2. 2023年度特別委員委嘱承認願い

- ・戦略企画部

長谷川英重氏（保健医療福祉情報基盤検討委員会）、西原栄太郎氏（保健医療福祉情報基盤検討委員会）、橋詰明英氏（ヘルスソフトウェア対応委員会）の3名に特別委員を委嘱することについて承認した。

- ・標準化推進部会

佐々木文夫氏（国内標準化委員会）、長谷川英重氏（国際標準化委員会）、平井正明氏（国際標準化委員会、安全性・品質企画委員会）、松元恒一郎氏（国際標準化委員会、安全性・品質企画委員会）、喜多紘一氏（安全性・品質企画委員会）、橋詰明英氏（安全性・品質企画委員会）の6名に特別委員を委嘱することについて承認した。

・医療システム部会

藤咲喜丈氏（検査システム委員会、部門システム委員会）、香坂浩之氏（検査システム委員会 放射線治療WG）、鈴木一洋氏（検査システム委員会 放射線治療WG）、喜多紘一氏（セキュリティ委員会）、長谷川英重氏（セキュリティ委員会）、平田泰三氏（セキュリティ委員会）の6名に特別委員を委嘱することについて承認した。

3. 対外活動申請

・電子処方箋推進協議会への構成員派遣の件

戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏、副室長 新垣淑仁氏を本協議会に参加者派遣することについて承認した。

・独立行政法人福祉医療機構主催の「WAMNET事業推進専門委員会」への委員委嘱

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏を本件の委員委嘱することについて承認した。

4. 国際標準化団体への派遣者リスト

・2022年度変更の件

今年度の国際標準化団体派遣者リストの記載内容を一部変更することについて承認した。

・2023年度の件

来年度の国際標準化団体派遣者リストについて承認した。

5. 外部学識経験者への国際標準化活動参加依頼の件

外部学識経験者3名に国際標準化活動参加を依頼することについて承認した。

- ・木村通男先生（浜松医科大学医学部付属病院医療情報部教授）
- ・澤智博先生（帝京大学医療情報システム研究センター教授）
- ・岡田美保子先生（一般社団法人医療データ活用基盤整備機構理事長）

6. 規則201号の改定依頼

事務局規則に事務局内規の第7条として追加することについて承認した。

7. 相談事項

・2022年度表彰候補者の推薦と選考

JAHIS社員総会（6/14）において表彰される各部会の今年度表彰候補者推薦、提出（納期3/31）のお願い、および選考会の開催日時（4/11（火）13:00-15:00）や表彰規程の変更等について説明された。

・総務会市場調査TF（矢野経済研究所作成）の報告会開催について

矢野経済研究所殿からの成果物が納品されたので、今後の新規会員獲得や中長期的ビジョン等に活用されるよう計画している報告会（3月7日（火）11:00-12:00）への参加のお願いと予告について説明された。

・6月の社員総会と懇親会のリアル開催に関する相談

6月14日（水）開催予定の第13期定時社員総会について準備を開始し始めていること、開催形式としては森田会長、外部識者からリアル開催で構わないのではないかと意見もあり、リアル開催を念頭に置いて懇親会も開催する方向で検討していることについて報告があった。

また、従来通りのリアル懇親会では200名を超える規模となり、人数制限や留意事項等の意見があれば総務会に寄せて欲しいとの相談がされた。

2022年度 第12回運営会議議事録

＜日時＞：2023年3月22日（水）15:00～17:55

＜場所＞：WEB会議

1. 対外活動申請

- ・厚生労働省「令和5年度 医療機能情報提供制度・薬局機能情報提供制度の全国統一システムの運用・保守・改修に係るプロジェクト管理支援業務」検討委員会委員、ワーキンググループ構成員への委員派遣について
戦略企画部 運営幹事 中光敬氏を本検討委員会委員およびワーキンググループ構成員への委員派遣することについて承認した。
- ・第27回日本医療情報学会春季学術大会のチュートリアルへの講師派遣の件
戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣淑仁氏を本チュートリアルに講師派遣することについて承認した。
- ・第71回日本輸血・細胞治療学会学術総会への演者派遣について
医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員 湯浅隼人氏を本学術総会に演者派遣することについて承認した。
- ・日本医業経営コンサルタント協会近畿地区協議会／医療DX研究会への委員派遣について
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏を本研究会に委員として派遣することについて承認した。
- ・日本医業経営コンサルタント協会機関紙JAHMC（ジャーマック）への寄稿について
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏が執筆対応することについて承認した。
- ・高齢者住宅新聞社の取材対応について
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏が本件対応することについて承認した。
- ・医療材料統合流通研究会「標準バーコード・RFIDで実現する医療機関のためのDX」への寄稿について
医療システム部会 電子カルテ委員会 委員 後藤孝周氏が執筆対応することについて承認した。
- ・国民健康保険中央会「障害者総合支援事務処理システム検討会」への委員推薦
保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 鹿妻洋之氏をTC215/WG11の国内作業部会に委員派遣することを承認した。

2. 2023年度 特別委員委嘱承認願い

- ・保健福祉システム部会
西原栄太郎氏に保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 特別委員を委嘱することを承認した。

3. 2023年度事業計画・予算計画暫定承認の件

次期システム更新プロジェクト費用の2023年度上期シフト等について、審議資料への記載等を調整の上、事業計画・予算計画を承認した。

2023年度 第1回運営会議議事録

＜日時＞：2023年4月18日（火）15:00～17:22

＜場所＞：WEB会議

1. 2023年度第1回定例理事会について

5/12開催予定の2023年度第1回定例理事会関連資料の準備状況が説明され、確認した。但し、2022年度決算書や2023年度予算書を含む一部資料が、本審議に間に合わなかったこともあり、4月最終週から5月第二週初旬に電子投票による審議事項とすることとした。

2. COVID-19 5類移行後のJAHISの対応について

2023年5月8日にCOVID-19が5類に移行されることを条件とし、同日以降、COVID-19で策定されたルールを原則廃止することが説明され、承認した。

3. 表彰候補者選定について

奨励賞（個人）5名、功績賞（個人）7名、功績賞（連名）3組（8名）、功績賞（グループ）4グループ（55名）および幹部表彰3名の表彰について承認した。

4. 対外活動申請

・MEDIS-DC「歯科分野の標準化委員会」委員派遣について

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長 小森一秀氏を本委員会に委員派遣することについて承認した。

・人間ドック学会 第4期特定健診・特定保健指導説明会での講演

保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 鹿妻洋之氏、副委員長 井上裕之氏を本講演に活動者派遣することについて承認した。

・インナービジョン2023年7月号付録「ITvision No.48」 特集「最新技術で「絆」が強まる地域医療連携」への寄稿

保健福祉システム部会 地域医療システム委員会 副委員長 光城元博氏が執筆対応することについて承認した。

5. 相談事項

・PHC社→ウィーメックス社による2023年度JAHIS運営体制について

2023年度JAHIS運営体制表及び運営会議メンバー表を利用し、追加報告した。

2023年度 第2回運営会議議事録

＜日時＞：2023年5月23日（火）15:00～17:12

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

・2023 年度第1 回定例理事会議案審議の件

5/9電子投票において、2023 年度第1 回定例理事会議案・資料について承認されたことが報告された

2. ヘルスソフトウェア対応委員会 メンバー選任の件

戦略企画部 ヘルスソフトウェア対応委員会 委員として、PHC社（F会員）の後藤孝周氏を選任することについて承認した。

3. ACTION1 対応WG のメンバー変更について

ACTION1対応WGメンバーリスト（2023/5/23）について、PHC(株)後藤孝周氏を追記修正することとし、その他は原案どおりとし、承認した。

4. 外部学識経験者の国際標準化活動継続およびリスト更新の件

同リスト内の木村通男先生（外部学識経験者）の所属先及び、高橋賢一氏（IHE臨床検査PaLMDメイン・セクレタリ／検査システム委員会委員）の会社名変更について承認した。

5. 表彰候補者選定について

奨励賞（個人）5名、功績賞（個人）8名、功績賞（連名）3組（8名）、功績賞（グループ）4グループ（55名）および幹部表彰4名の表彰について承認した。

6. 対外活動申請

- ・「訪問看護療養費レセプトの電子化及びレセプトオンライン請求の促進に関する調査等一式」において開催する関係者検討会議へのオブザーバ派遣について

本件への対応要員として医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁氏、同副委員長 高橋和彦氏、同副委員長 石川竜太氏、同副委員長 今村将訓氏、電子レセプト委員会委員長 西口妙子氏、歯科システム委員会 委員長 西田潔氏、事務局 医事コンピュータ部長 前田利勝氏の7名を派遣することについて承認した。

- ・MEDIS-DC「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」の委員派遣について

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 歯科標準化分科会 リーダ 佐藤孝昭氏を本委員会に委員派遣することについて承認した。

- ・MEDIS-DC 看護実践用語標準マスターのデータ利用に関するタスクフォースへの委員派遣

医療システム部会 部門システム委員会 病棟業務支援システム専門委員会 専門委員長 木戸須美子氏、同専門委員会看護情報WG リーダ 汐崎弘子氏を委員派遣することを承認した。

- ・MEDIS-DC 口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会への委員派遣

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を委員派遣することを承認した。

7. 相談事項

- ・HELICS の事務局引き受けの件

HELICS の事務局を引き受ける方向で調整を進めることとした。

2023年度 第3回運営会議議事録

＜日時＞：2023年6月20日（火）15:00～17:38

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

- ・電子処方箋等検討ワーキンググループ 構成員 派遣者交代および期間延長の件

6/8電子投票において原案通り、活動者の戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣淑仁氏への交代、活動期間の延長（2023/6～2025/6）、および厚生労働省健康・医療・介護情報利活用検討会の下での位置づけへの変更、電子処方箋等検討ワーキンググループへの会議名称変更、公開会議への変更について承認されたことが報告された。

- ・透析情報標準規格 技術仕様ワーキンググループへの委員派遣

6/13電子投票において原案通り、医療システム部会 電子カルテ委員会 副委員長 太田聡司氏、部門システム委員会 委員 根来秀明氏の委員派遣について承認されたことが報告された。

2. HELICSの事務局引き受けの件

同事務局機能を引き受ける上で未だ不明確な点も散見されるため、今回は審議を保留とし、課題を整理した上で継続して検討を進めることとなった。

3. 対外活動申請

- ・じほう社：サイバーセキュリティ対策に関しての取材依頼の件

運営会議 議長 大原通宏氏、戦略企画部長 並川寛和氏が本件の取材対応をすることについて承認した。

- ・「介護事業所におけるデータ連携による生産性向上に関する調査研究等一式」において開催する調査検討委員会等への委員派遣について

医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁氏を委員派遣することについて承認した。

- ・令和5年度経済産業省事業 保健医療福祉リアルワールドデータ活用 促進のための国際標準化「ヘルス&ケアデータプロセスモデル」国際規格開発委員会への委員派遣

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を委員派遣することについて承認した。

- ・令和5年度経済産業省事業 保健医療福祉リアルワールドデータ活用 促進のための国際標準化モデル作成小委員会への委員派遣

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を委員派遣することについて承認した。

- ・特許出願技術動向調査「ヘルスケアインフォマティクス」アドバイザリーボードへの委員参加

保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 鹿妻洋之氏を委員派遣することについて承認した。

委員派遣ならびに協賛・後援 (2023年1月～2023年6月承認)

【委員派遣】

(承認番号)

1. 内閣府 規制改革推進室

(23-02-01)

「内閣府 規制改革推進会議 医療・介護・感染症対策ワーキング・グループ」委員
(2023年2月13日)

医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田 靖士

2. 厚生労働省 医政局

(23-02-002)

「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策セミナー」講演
(2023年2月15日)

戦略企画部 部長 並川 寛和

3. 厚生労働省 医薬・生活衛生局 (23-02-003)
「電子処方箋推進協議会」構成員
(2023年2月27日～2023年9月30日)
戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁
4. 独立行政法人 福祉医療機構 (23-02-004)
「WAMNET事業推進専門委員会」委員
(2022年2月21日～2024年3月31日)
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦
5. 厚生労働省 医政局、医薬・生活衛生局 (23-03-001)
令和5年度「医療機能情報提供制度・薬局機能情報提供制度の全国統一システムの運用・保守・改修に係るプロジェクト管理支援業務」検討委員会委員、ワーキング・グループ構成員
(2023年4月1日～2024年3月31日)
戦略企画部 運営幹事 中光 敬
6. (一財) 医療情報標準化推進協議会 (23-03-002)
第27回日本医療情報学会春季学術大会のチュートリアルへの講師
(2023年6月29日)
戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁
7. (一財) 日本輸血・細胞治療学会 (23-03-003)
第71回日本輸血・細胞治療学会学術総会への演者
(2023年5月10日～13日)
医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員 湯浅 隼人
8. (公社) 日本医業経営コンサルタント協会 (23-03-004)
近畿地区協議会「医療DX研究会」委員
(2023年5月1日～2024年3月31日)
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

9. 国民健康保険中央会 (23-03-008)
「障害者総合支援事務処理システム検討会」委員
(2023年4月1日～2025年3月31日)
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦
委員 茶珍 啓一郎
委員 入江 徹
委員 長井 陽菜
委員 鴻谷 則和
委員 長尾 竜一郎
委員 山下 隆二
委員 中山 満弘
10. (一財) 医療情報システム開発センター (23-04-001)
「歯科分野の標準化委員会」委員
(2023年4月18日～2024年3月31日)
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長 小森 一秀
11. (公社) 日本人間ドック学会 (23-04-002)
「第4期特定健診・特定保健指導説明会」講演
(2023年6月1日)
保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 委員長 鹿妻 洋之
副委員長 井上 裕之
12. 厚生労働省 (23-05-001)
(株式会社クニエ受託事業)
「訪問看護療養費レセプトの電子化及びレセプトオンライン請求の促進に関する調査等一式」において開催する関係者検討会議へのオブザーバ
(2023年5月23日～2024年3月31日)
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山 仁
副委員長 高橋 和彦
副委員長 石川 竜太
副委員長 今村 将訓
医事コンピュータ部会 電子レセプト委員会 委員長 西口 妙子
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 委員長 西田 潔
事務局 医事コンピュータ部長 前田 利勝

13. (一財) 医療情報システム開発センター (23-05-002)
MEDIS-DC「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」委員
(2023年5月23日～2024年3月31日)
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 歯科標準化分科会 リーダ 佐藤 孝昭
14. (一財) 医療情報システム開発センター (23-05-003)
MEDIS-DC「看護実践用語標準マスターのデータ利用に関するタスクフォース」委員
(2023年5月23日～2024年3月31日)
医療システム部会 部門システム委員会 病棟業務支援システム専門委員会 委員長 木戸 須美子
同専門委員会 看護情報WG リーダ 汐崎 弘子
15. (一財) 医療情報システム開発センター (23-05-004)
MEDIS-DC「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」委員
(2023年5月23日～2024年3月31日)
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦
16. 厚生労働省 医薬・生活衛生局 (23-06-001)
「電子処方箋等検討ワーキング・グループ」委員
(2023年6月～2025年6月)
戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁
17. (一財) 医療データ活用基盤整備機構 (23-06-002)
「透析情報の標準規格開発並びに透析診療施設間の連携を支援する標準化に関する研究 透析情報
標準技術仕様ワーキング・グループ」委員
(2023年6月20日～2024年3月29日)
医療システム部会 電子カルテ委員会 副委員長 太田 聡司
医療システム部会 部門システム委員会 委員 根来 秀明
18. 厚生労働省 (23-06-004)
(株式会社三菱総合研究所 受託事業)
「介護事業所におけるデータ連携による生産性向上に関する調査研究等一式」において開催する
調査検討委員会等」委員
(2023年6月20日～2024年3月29日)
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山 仁

19. (一財) 医療データ活用基盤整備機構 (令和5年経済産業省事業) (23-06-005)

「保健医療福祉リアルワールドデータ活用促進のための国際標準化「ヘルス&ケアデータプロセス
モデル」国際規格開発委員会」 委員 (2023年6月20日～2024年2月29日)

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

20. (一財) 医療データ活用基盤整備機構 (23-06-006)

(令和5年経済産業省事業)

「保健医療福祉リアルワールドデータ活用促進のための国際標準化モデル作成小委員会」 委員
(2023年6月20日～2024年2月29日)

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

【寄稿・取材対応】

1. (公社) 日本医業経営コンサルタント協会 (23-03-005)

機関紙JAHMC

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

2. 株式会社高齢者住宅新聞社 (23-03-006)

週刊高齢者住宅新聞

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

3. 株式会社篠原出版新社 (23-03-007)

医療材料統合流通研究会「標準バーコード・RFIDで実現する医療機関のためのDX」

医療システム部会 電子カルテ委員会 委員 後藤 孝周

4. 株式会社インナービジョン (23-04-003)

2023年7月号付録「IT vision No.48」

保健福祉システム部会 地域医療システム委員会 副委員長 光城 元博

5. 株式会社じほう (23-06-003)

「サーバーセキュリティ対策」に関する取材対応

運営会議 議長 大原 通宏

戦略企画部 部長 並川 寛和

【後援】

- ・第27回 日本医業経営コンサルタント学会京都大会
- ・第52回 日本医療福祉設備学会

新規会員紹介

会誌第70号（2023年2月発行）掲載以降に新たに入会された会員各社の皆様から、会社の業務概要やJAHISへの参加目的、活動する上でのJAHISに望むことなどについて、メッセージをいただきましたので、入会日順に掲載します。

紹介項目

- ◆ 会社名
- ◆ 郵便番号、所在地
- ◆ 電話番号
- ◆ ホームページURL
- ◆ 会員連絡窓口
- ◆ 会社紹介

株式会社オークソリューションズ（2023年2月1日入会）

〒557-0045 大阪府大阪市西区北堀江1-1-10 アークビル3F

TEL：050-5536-7558

<https://oak-sol.com/>

代表取締役 中村 嘉孝

医療法人の情報システム部門からスピンアウトして生まれた会社です。

22年間、インハウスで培ってきた技術とノウハウを、広く医療のDX（デジタル・トランスフォーメーション）と医学のイノベーションに活かしたいという思いでスタートしました。

単にソフトウェアを販売するだけではなく、医療の現場、医学研究の最前線のニーズに合わせたきめ細かなチューニング、カスタマイズをアジャイルで対応します。

業務内容

- ・ORCA（日医標準レセプトソフト）の導入・運用支援
- ・医療機関のDX支援（OSS、クラウドサービスの導入と運用）
- ・自社開発電子カルテの販売、運用支援
- ・ラボ機器、レントゲン機器の情報システムへの接続サービス
- ・生殖医療ラボ関連デバイス、ソフトウェアの販売、運用支援
- ・バイオインフォマティクス・ゲノム解析

株式会社TMJ (2023年4月1日入会)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-20-1 住友不動産西新宿ビル

TEL : 03-6758-2000

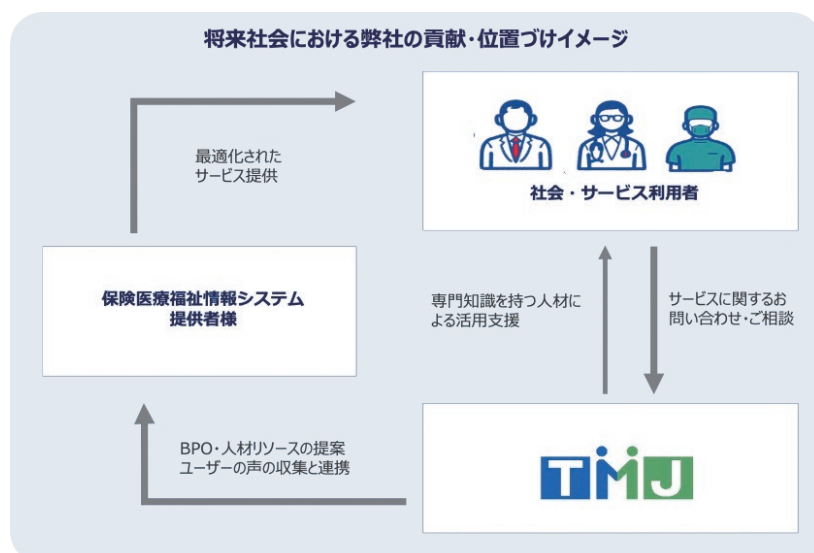
<https://www.tmj.jp/>

情通サービス事業本部 第2営業部 部長 有園 重弘

弊社は1992年に福武書店（現ベネッセ）より分社独立した総合的なBPOパートナーです。クライアント社員様が実施されている業務の一部を切り出し、外部委託や派遣で対応することで負荷軽減に繋げたり、様々な業種・業態企業の売上拡大やコスト削減に向けてソリューションを提案・提供しています。医療関連では、電子カルテにおけるユーザーサポートの委託化を通じて、サポート人員不足の解消、ユーザーの満足度向上を実現しております。

2017年以降、セコム株式会社100%子会社となりセコムグループの一員となりました。セコムグループでは変化してゆく社会課題に対し、“いつでも・どこでも・誰にとっても・切れ目のない安心”を提供する「あんしんプラットフォーム」構想の実現を目指す「セコムグループ2030年ビジョン」を策定しております。

弊社は、「健康で安心して暮らせる社会の実現」というJAHIS2030ビジョンの趣旨に賛同し、JAHISへの加入を希望いたしました。JAHISにおける活動を通じて、最新の業界動向や知見を吸収させて頂くことで、電子カルテサポートにおける人員不足解消のみならず、品質も向上させ、JAHIS2030ビジョンの実現に貢献したいと考えております。



株式会社シード・プランニング (2023年6月●日入会)

〒113-0034 東京都文京区湯島3-19-11 湯島ファーストビル 4F

TEL : 03-3835-9211 (代表)

<https://www.seedplanning.co.jp/>

リサーチ&コンサルティング部 ヘルスケアユニット ジェネラルマネージャー 米谷 知子

弊社株式会社シード・プランニングは、「メディカル」「創薬・バイオ」「ヘルスケア」「DX・IT・素材」「エネルギー・環境」の5つの領域に特化した、市場調査・コンサルティング会社です。特に医療・ヘルスケア領域は売上の7割を占めるなど強みがあります。企業、官公庁、自治体のお客様に対して、事業課題の解決、事業戦略の企画策定、市場動向把握、政策立案等の付加価値の高いサービスを提供しています。また年間約40本の自社企画市場調査レポートも発刊しています。加えて、業界団体や有識者による委員会、研究会、セミナーなどイベントの企画・運営、事務局支援等も行っています。

今回会員登録させていただいた理由は、医療DXや医療情報システム等、最新の業界動向を学び、その知識を活かして業界の発展に寄与できればと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社 ストランザ (2023年6月1日入会)

〒105-0004 東京都港区新橋6-17-21 住友不動産御成門駅前ビル3F

TEL : 03-6403-4880

<https://stransa.co.jp/>

ナレッジ推進室 家入 章子

株式会社ストランザは、歯科に特化したITシステムの開発・販売・サポートを行っております。2013年に開発・販売をしたクラウド型の業務管理システム「Apotool & Box」を軸に、数値分析や管理ができる経営支援ツールの「Intelligence」、診察券の代わりになる「診察券アプリ」、その他歯科医院のペーパーレス化を促進するデジタルサブカルテの「Medical Box Note」など治療領域まで展開を広げてまいりました。現在は有難いことに、全国で2,000件以上の歯科医院にご契約をいただいております。

弊社では“日本人の口腔内の健康を向上させ、健康寿命の伸長に貢献する”ことをミッションに掲げています。これを実現するためには、歯科業界のDXを促進し、医療従事者と患者との対話時間を生み出し、より多くの人に口腔内と衛生環境の重要性を理解してもらうことが必要だと考えています。

そのため、プロダクト利用者の声を基に改良を繰り返しながら、よりニーズに沿ったツールの提供と、歯科医院において人が対応しなくても良いものを全てシステムに置き換えるという「歯科医院 ほぼ無人化計画」を遂行してまいります。

貴会への入会を機会に歯科業界の更なる発展に貢献すべく、より一層精進してまいりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

株式会社アルム (2023年4月1日入会)

〒150-0043

東京都渋谷区道玄坂一丁目12番1号渋谷マークシティ ウエスト16階

TEL : 03-4361-2650

<https://www.allm.net/>

コンサルティング部 恩田 文子

株式会社アルムは「すべての医療を支える会社 (All Medical)」として、「Shaping Healthcare」をコーポレートメッセージに掲げ、ICTの力で医療の格差・ミスマッチをなくし、全ての人に公平な医療福祉を実現します。

独自のモバイル×クラウドに関するノウハウを強みに、医療・介護現場における多職種間での連携を強化するソリューションを展開し、働き方改革や地域包括ケアなど様々な社会課題の解決に貢献しています。

当社は、医療・介護現場のデジタルプラットフォームとして、医療現場には医療関係者間コミュニケーションアプリ「Join」、介護現場には多職種連携ソリューション「Team」、一般生活者には救命・健康サポートアプリ「MySOS」を提供し、各製品がシームレスに連携することで、医療・介護従事者の業務改善に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の拡大時には、多職種連携ソリューション「Team」を元に在宅療養者管理システムを構築し、いち早く提供を開始するなど、社会情勢や現場のニーズに合わせたサービスを提供してまいりました。今後も既存ソリューションの幅広い用途に対応する機能強化や新ソリューションの開発、他社システムとの連携等により医療・介護現場のDX化を進めていくにあたり、JAHISの情報共有は不可欠であると考え、この度加入致しました。

何卒よろしくお願いいたします。

ランクアップ会員紹介

株式会社医療情報システム（2023年4月1日付 C会員）

〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町1丁目4番8号 IJSビル

TEL：06-6223-9900

<https://www.iryojoho.jp>

管理本部 担当部長 棟川 治樹

弊社では医療機関のベストパートナーとして「患者サービスの向上」「診療支援」「経営支援」を実現すべく、電子カルテシステムや医事会計システムをはじめとする医療機関の情報システムを総合的に販売・サポート支援をさせて頂いております。

また、2006年より弊社オリジナルの電子カルテシステムを展開させて頂いており、お陰様で40件近いお客様にてご利用頂いております。

今回、弊社では会員種別をCに変更させて頂きました。自社開発商品のウエイトも増える中、今後の政府や業界動向について、JAHISの活動の中で情報収集手段の一つとして活用させて頂きたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

株式会社ファインデックス（2023年6月1日付 B会員）

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル26F

TEL：03-6271-8958

<https://findex.co.jp/>

パッケージ開発部長 宮川 力

ファインデックスでは医療システム分野に始まり、医療IoTデバイス・AI関連等の医療機器、官庁・自治体向けのオフィスシステム等の自社製品パッケージ開発・販売を中心に事業を展開しています。

メインの医療システム分野では、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科等の自科内検査が多い診療科向けに画像検査や計測値等を管理する部門向けシステムや、医療機関で発生する様々な文書・レポートを統合的に管理できる文書システムを中心に、ナショナルセンターや大学病院等の大規模医療機関から、診療所・クリニック等の小規模医療機関向けまで幅広く製品をご利用いただいております。

今回ファインデックスは会員種別をE会員からB会員へ変更いたしました。

1) 医療DXを取り巻く環境が目まぐるしく変化しているなかで、JAHISの役割が高まってきており、その情報のキャッチアップすること、2) 今後幅広い範囲に対して適用されていくであろうHL7 FHIRの標準規格を日本国内に向けて広げていくためにリーダーシップを発揮し、その結果ベンダ間や地域間を超えた新しいサービス等の創出に関わること、3) セキュリティをはじめとした技術面において、

オープンな情報を正確に把握する重要性が増しており、その最新動向をはじめとした情報入手に役立つこと、4) JAHISの様々な活動に対して協力していることが会社にとってアピールできる材料となること等、今後の期待を含めて会員種別変更に至りました。

メリットを享受するだけでなく、JAHISの活動の一端を担う責任ある立場になると考えております。今までJAHISの活動の貢献としてはごく僅かでありましたが、今後は皆さまにも認知していただくように会社として積極的に関わっていき、日本医療システムの発展に寄与できればと考えております。

就任のご挨拶

事務局 総務部長

てらさき たかひろ
寺崎 貴宏



昨年の10月にJAHIS事務局総務部に入職しました寺崎です。前任の谷口部長から引き継ぎをさせていただき、本年4月から本格的に総務を担当しております。これから宜しくお願いいたします。

まずは、簡単な自己紹介をさせていただきます。私は1985年に日本アイ・ビー・エム(株)（以下「日本IBM」）のスタッフ部門に入社しましたが、その後異動してほぼ30年間を医療機関と医療機関をお客様にする民間企業を担当する営業部門に在籍しておりました。異動した当時は1990年代の初めから2000年にかけて、各社が競って電子カルテシステムを開発し、横展開を進めていこうとしていた頃で、複数の施設に徐々に導入が進んでいくと、「package化」や「Solution Core化」の整備が急がれていた時代でした。営業部門に所属してはいるものの、作るものがほぼ全て新しいシステムなので、現場でSEチームと一緒に現場で要件をまとめる作業に大いに喜びを感じていました。

それから、電子カルテシステムがASSET化されて横展開が以前よりもスムーズになると、需要が増えてくる一方、リソース不足から新規顧客の開拓と既存ユーザーの満足度維持の両立が難しい時代になりました。また管理職になると、Industry Solution の日本以外の売上目標も管理され、できない英語で言い訳ばかりをしている時期がありました。外人から繰り返し言われた「disappointment」というこの言葉を今も聞いたり目にすると、当時の口惜しさが蘇ってきます。

2020年頃は、AIによる診療支援やゲノム解析をどう医療現場に活かすか、HL7 FHIRというコンセプトをどのようにASSETに実装するかなど、次世代の電子カルテシステムに向けた新たな段階に入っており、少し後ろ髪をひかれながら定年を迎えました。

日本IBMを退職した後は、父親の介護もあって地元での仕事探しを始め、これまでとは全く違う世界もいいかと思い、未経験ながら興味があった遺跡発掘調査の作業員に応募しました。2021年の夏に埼玉の地元教育委員会に所属して、それから1年間縄文時代中後期の遺跡発掘作業を経験しました。AIとか量子コンピュータといった最先端のIT業界から、雨が降ればその日の作業は中止となる生活を楽

しむようになりました。朝9時から午後3時までの肉体労働で、作業が終わればほぼ毎日近所の健康ランドでサウナに入り、自宅でビールを飲む日々は、右手を酷使して腱鞘炎にかかる弊害もありましたが、精神的身体的に極めて健康的な生活でした。しかも調査員の指示のもと、数千年前の縄文人の住居や生活用品の在りかを推理しながら掘り出す作業は知的作業でもあります。同僚の男性作業員の多くは、教師や技術者だった方で、各自のこれまでの発掘経験と知識、それに土を見る観察力を加えた仮説の出し合いに初心者ながら自分も参加できたことは大変楽しい体験となりました。

最後にもう一つだけ、趣味の一つである「料理」の話を加えたいと思います。料理を始める前の流し台に残っている食器を洗ったり整理したりするところから、最後に食器を棚にしまうところまで、数字に追われていた営業時代、全てに没頭できるストレスレスの時間となっていました。週末は子供たちのリクエストを聞いていろいろな料理を作り楽しんでいましたし、年頃の娘たちとの良いコミュニケーションになっていました。今でも冷蔵庫にある食材で何か作るという創造力が必要な作業や、ネットで公開されている自慢のレシピに自分流のアレンジを加えて楽しんでいます。

さて、昨年秋にご縁があってこのJAHISに入りました。総務という仕事は、医療スキルや過去の経験は特段必要ないかもしれませんが、これから錆びれたスキルのブラッシュアップもしようかと考えています。また最適なワークライフバランスを追求したり、過去のしがらみに囚われないで業務プロセスの見直しに貢献できたらと考えております。総務という機能を通じて、おおげさに言えばJAHIS会員の業容発展に寄与し、国民共通の利益を追求する事案に係われるようにしたいと考えております。これから数年間、何卒皆様のご指導とご支援、宜しくお願い申し上げます。



発掘現場

編集後記

執筆者の皆様におかれましては、ご多忙の中ご寄稿いただきまして、誠にありがとうございます。お蔭様で会誌71号の発刊をおこなうことができました。

新型コロナが5類になった5月以降、事務所のある東京新橋界隈も昼時にもなると多くのサラリーマンがお店の前で行列を作るようになってきました。また宴会料金も値上がりしているにもかかわらず、夜の街は賑わいをみせるようになりました。

市場の企業業績への期待も高まり、東京株式市場の日経平均株価も上昇し、経済が活気を帯びてくる（＝消費が拡大する）ことを実感すると、コロナの流行「第9波」の話があるものの、何か浮ついたような感覚になっています。

しかし、私たちを取り巻く業界はどうでしょうか。

厚生労働省職業安定局の「雇用政策研究会報告書」によれば、2040年の医療・福祉分野の就業者数は974万人で総就業者数の16%を占めるようになり、産業別では製造業に次いで第2位になると推計されています。しかし人手不足は、96万人になるとも予測されています。

医療・福祉分野での労働生産性を高めることが、人手不足の解消と日本の経済効率に大変重要であること、また市場の魅力を高め、他業界との賃金格差を減らすことが急務になっています。医療・福祉を社会コストと捉えるのではなく、新たなサービス産業をも創出する魅力的な市場にするという医療DXは後戻りのできない絶対条件です。

にも拘わらず、現在のマイナンバーカードの騒動においては、構想と実装・運用のギャップが大きすぎると評価され、真のメリットが見えず、コストとトラブルばかり増えてしまうという状況に追い込まれています。最悪の場合には、医療DX推進に悪影響を与えることになるのです。

JAHISは、医療DXの推進が停滞してしまうという事態を避けるために、これまで以上に当事者意識で関係省庁と一体となって、問題解決に向けた役割を果たすことが重要だと思われます。

T.T記

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第71号

令和5年8月4日 発行

発行人：下山 赤城

編集委員会：編集人 寺崎 貴宏
委員 岩本 和則
委員 前田 利勝
委員 岸本 芳典
委員 柘植 章彦
委員 真野 誠
委員 米納 達二
委員 吉野 裕夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <https://www.jahis.jp>

制作：株式会社イズアソシエイツ

